

京都府久御山町

林寺跡試掘調査報告書

財團法人 古代學協會

京 都

平成 14 年

目 次

第1章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境	1
第1節 遺跡の位置と地形	1
第2節 遺跡周辺の歴史的環境	1
第3節 林寺跡をめぐる従来の認識	3
第2章 調査の経過	6
第1節 調査に至る経緯	6
第2節 調査経過	6
第3章 層序と遺構	8
第1節 層序と遺構の概要	8
第2節 第1トレンチ	8
第3節 第2トレンチ	9
第4節 第3トレンチ	9
第5節 第4トレンチ	10
第4章 出土遺物	11
第1節 縄文土器	11
第2節 弥生土器	11
第3節 土師器	11
第4節 須恵器	12
第5節 黒色土器・瓦器・瓦質土器	12
第6節 陶磁器	13
第7節 瓦	13
第8節 製塙土器	13
第9節 土製品・石製品	14
第5章 まとめ	15

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置 1	1
第2図 遺跡の位置 2 (1/25000)	2
第3図 調査区配置図 (1/2500)	2
第4図 久世郡押志の郷（久御山町林）の林庵寺址	4
第5図 グリッド割付図 (1/1000)	7
第6図 ピットP320検出状況 (1/10) とその出土須恵器 (1/3)	10
第7図 須恵器大甕 (1/3)	12

図 版 目 次

図版1 第1トレンチ平面図・断面図 (1/250)	27
図版2 第2トレンチ平面図・断面図 (1/250)	29
図版3 第3トレンチ平面図・断面図 (1/250)	31
図版4 第4トレンチ平面図・断面図 (1/250)	33
図版5 縄文土器・弥生土器・土師器実測図 (1/3)	35
図版6 須恵器実測図 (1/3)	37
図版7 黒色土器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・土製品・石製品実測図 (1/3)	39
図版8 瓦実測図 (1/2)	41
図版9 上 発掘前光景（西・6層駐車場屋上の東南より）.....	43
下 機械掘削光景（西より）	43
図版10 上 第1トレンチ遺構検出作業光景（西より）.....	45
下 第1トレンチ終了光景（東より）.....	45
図版11 上 第2トレンチ終了光景（東より）	47
下 第3トレンチ終了光景（西より）	47
図版12 上 第4トレンチ終了光景（西より）	49
下 終了全景（西・6層駐車場屋上東より）.....	49
図版13 上 第1トレンチ拡張区遺構検出状況（北西より）.....	51
下 土坑SK177遺物出土状況（東より）	51
図版14 上 第3トレンチ拡張区遺構検出状況（北西より）.....	53
下 ピットP320検出状況（北より）	53
図版15 上 土師器	55
下 須恵器	55
図版16 上 瓦器・瓦質土器	57
下 瓦	57

付 表 目 次

第1表 土器・陶磁器觀察表	16
第2表 瓦觀察表	23

例　　言

1. 本書は、平成13年に財團法人古代學協會・古代學研究所が日産自動車株式会社の委託を受けて行った、京都府久世郡久御山町大字林字高黒地内の試掘調査の報告書である。
2. 掘図及び図版で使用した方位・座標値は、平面直角座標第VI系に基づくものである。ただし、単位(m)は省略している。標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。
3. 第2図には国土交通省国土地理院地形図「淀」「宇治」(1/25000)を使用した。
4. 本書で使用した土色名は農林水産省農林水産技術會議事務局監修『新版標準土色帖』(2000年版)に準じた。
5. 造柵・遺物の実測は河野凡洋、谷口 梢、桐山秀穂が行った。
6. 図版の作成とトレースは河野、谷口、桐山が行った。
7. 写真の撮影は江谷 寛、桐山が行った。
8. 出土遺物は久御山町教育委員会が、調査の記録は財團法人古代學協會・古代學研究所がそれぞれ保管する。
9. 本書の執筆は、江谷（第5章）と桐山（第1～第4章）が行い、編集は江谷が行った。

第1章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地形（第1図～第3図参照）

林寺跡は京都府久世郡久御山町林字高黒地内に所在する。近鉄大久保駅から西へ1.2km、寺山地区の丘陵の緩やかな坂を下りきり、沖積平野に入ったところに位置する。現在の日産自動車京都工場の敷地内である。

この沖積平野は、京都盆地の中部、西を男山丘陵、東を宇治丘陵によって画された木津川下流の沖積平野である。木津川は三重県布引山地に水系の端を発し京都府木津町・山城町で流れを西から北へ大きく変える。そして北流した木津川は戦前までは巨椋池に流れ込み、その下流域に沖積平野を発達させてきた。巨椋池は京都盆地のほぼ中央部に位置した池であったが、昭和16年（1941年）に干拓が完成し、現在では水田地となっている。

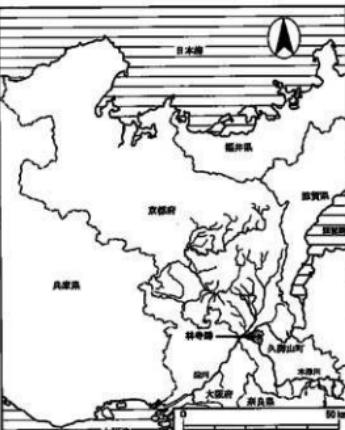
木津川下流域の平野についてはほぼ平坦な地勢であるが、標高は府道宇治淀線の佐山より田井に至る間が13～13.5mと最も高く、これより旧巨椋池に向かって緩やかに傾斜している。木津川左岸では久御山町森・双栗から八幡市内里、京田辺市大住を結ぶラインより西、右岸では久御山町中島・坊ノ池以東では条里型地割が非常に多く残っている。中世までに土砂の堆積が進み、開発が及んでいたのであろう。

この平野には旧河道及び微高地が広範に分布している。微高地は現在市田、佐山、林のような古くからの集落や島畠に利用されている。大部分が木津川や旧河道に伴う河川堤防である。そして旧河道は網状に分布しており、微高地を各所に形成する。城陽市寺田から坂本にかけて扇状地末端から西向きの数条の旧河道が確認できるが、木津川本流の旧河道とは営力的に異なる。木津川とは別の河道であった可能性が高い。同様に、林寺跡でも蛇行しつつ西流する旧河道の存在が指摘され、旧名木川にあてる説がある。この旧河道が形成するいくつかの微高地には佐山、林などの集落が立地しているが、その一つとみられる微高地に林寺跡は立地している。旧巨椋池から南へ1.3kmの地点である。

第2節 遺跡周辺の歴史的環境

林寺跡は前述の通り沖積低地の中に立地しており、周辺の古代の集落も林寺跡と同様に微高地に展開している。林寺跡西側では市田齊当坊遺跡（弥生時代中期・古墳時代前期）、佐山遺跡（弥生時代後期・弥生時代終末期～古墳時代後期）、佐山尼垣外遺跡（绳文時代晚期・弥生時代中期～後期）がある。このうち弥生時代中期の環濠集落である市田齊当坊遺跡、弥生時代終末期～古墳時代後期の佐山遺跡では、この時期の拠点集落である。また、林寺跡東側では巨椋神社東遺跡（弥生時代後期）、神楽田遺跡（弥生時代中期）、若林遺跡（古墳時代前期）、井尻遺跡（弥生時代～古墳時代）、旦椋遺跡（古墳時代）がある。

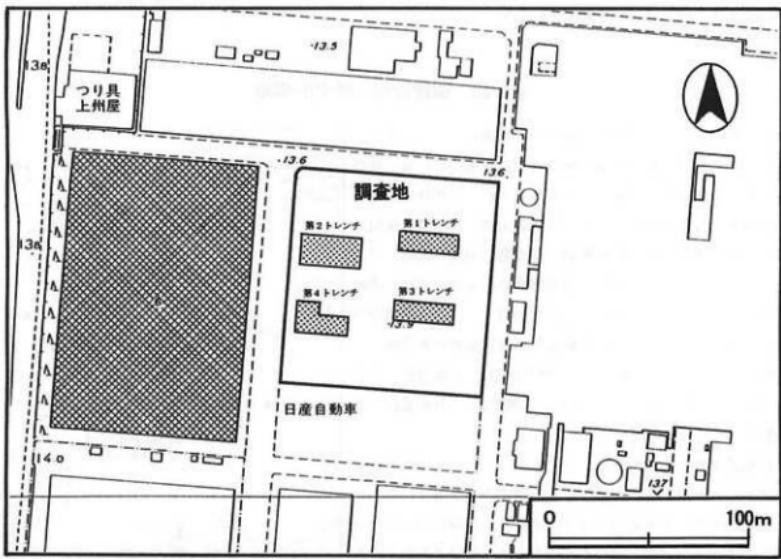
巨椋池南岸の沖積低地において古墳は、近年宇治市若林遺跡において5世紀代の方墳が1基、市田齊当坊遺跡において6世紀の方墳が1基見つかっている。この地域において調査事例が少なく、古墳は調査の進展とともに発見されてくるものと思われる。宇治市域の丘陵部に庵寺山古墳（前期）、金毘



第1図 遺跡の位置 1



第2図 道路の位置 2 (1/25000)



第3図 調査区配置図 (1/2500)

羅山古墳（中期），坊主山古墳（後期）と古墳時代を通じて分布している。古墳時代中期に林寺跡の南方に南山城の首長墓とみられる久津川車塚古墳を始めとする久津川古墳群が展開している。中でも久津川車塚古墳は畿内でも有数の大型前方後円墳であり、主体部からは竜山石製の長持形石棺をはじめ、鏡、玉類、武器、武具など豊富な副葬品が出土している。ヤマト政権と深く結びついた有力な首長の存在をうかがわせている。

『日本書紀』によれば5世紀、ないしは7世紀に『栗隈大溝』が開削されたという⁽¹⁾。こうした土地開発も、南山城に首長として立つ政治力・経済力を背景としたものであろう。栗隈大溝の所在については、現在の古川を当てる説⁽²⁾、長池から久津川にいたる堤防説⁽³⁾、旦掠遺跡で確認された溝を当てる説⁽⁴⁾があるが、古川を当てる説が最も有力なようである。

統いて奈良・平安時代、この周辺には古代寺院が多く、宇治市広野庵寺、城陽市久世庵寺、平川庵寺がある。また、城陽市正造遺跡は郡衙に關係する遺跡と考えられている。いずれも奈良時代の創建である。また、この地域では条里型地割がよく残っており、前述の市田齊当坊遺跡、佐山遺跡、佐山尼垣外遺跡では奈良時代以降の条里型地割に關係する遺構が確認されている。

『和名類聚抄』によれば久御山町が所在する久世郡では竹瀬、奈美、那羅、水主、那紀、宇治、久世、殖栗、栗隈、富野、押志、羽栗の十二郷があげられている⁽⁵⁾。大字名の林はこの押志郷の遺称であり、奈良時代以降の集落であることがわかる。

また、『延喜式』内膳司式には奈良園、奈癸園が登場する。奈良園は那羅郷、「すなわち現在の八幡市上奈良、下奈良一帯、奈癸園は那紀郷、現在の宇治市伊勢田町付近と考えられている。こうした園地では野菜類が栽培され、宮中に貢進された。このような園地の存在を考える時、巨椋池南畔の沖積低地は農業地帯として認識され開発が相当進んでいたものと考えられる。

久世郡における式内社には石田神社、水主神社、荒見神社、水度神社、伊勢田神社、室城神社、雙栗神社、旦掠神社、巨椋神社がある。大社の奉祭神数は14座で山城国八郡の中でも2番目に多い。そして、水度神社以外の八社は沖積低地内に分布しており、古くから低地部に開発が及んでいたことがうかがわれる。このうち雙栗神社は林寺跡の西800m、林の集落内にある。旦掠神社は現在大久保の集落に鎮座しているが、近世までは林寺跡の南500mのところにあったとされている。

平安時代後期以降、水上交通の発達と物資の流通の発達とともに、巨椋池周辺における経済活動は再び活発となる。長保三年（1001）四月八日付の山城国禪定寺田畠流記帳⁽⁶⁾によれば押志郷に禪定寺寺領の畠六段があったとされている。また佐山遺跡においては平安時代後期以降、鎌倉時代前半を中心とした時期の堀を巡らした屋敷地が発見されている⁽⁷⁾。文献史料の上でも石清水八幡宮文書に「狹山郷」「麻倉郷」「栗前郷」が登場し、石清水八幡宮との間の活発な経済活動がうかがわれる。なお雙栗神社を中心として西林寺、満願寺、称名寺に平安時代後期の半丈六仏が集中していることは非常に特筆すべきものである。このようなことは水上交通や流通の発達した結果、淀川・巨椋池を介した交通・流通の結節点となり、経済的地位を確立した結果と思われる。

第3節 林寺跡をめぐる從来の認識（第4図参照）

林寺跡は今回が試掘ではあるが、初めての発掘調査である。ここでは、これまでの研究者による林寺跡の現状に関する認識とその解釈を整理しておく。また、林寺跡は『日本文徳実錄』⁽⁸⁾『延喜式』⁽⁹⁾に登場する「押志寺」に比定する説がある。この解釈との関りについても触れておきたい。

林寺跡に関するこれまでの研究者による記述は以下の3つの文献があり、以下順をおって概説する。

1. 吉田東伍『大日本地名辞書』（富山房・東京、明治33年）

山城國久世郡押志郷の項に『相之京』という小項目があり、ここに林寺跡のことが記載されている。原文は

次の通りである。

河田氏云、林村字高里は相之京とも云ふ。拝志長者の宅址にて近傍に幣田神田あり。耕者往々古瓦を掘出す。其形完き者方三寸厚一寸六分、表に巻絹裏に雲紋を印す。又其壙は中央に小塚あり。土人呼びて野神と曰ふ。(171頁)

ここでは林寺跡の状況については、①野神と呼ばれる小塚（小さい高まりのことか）がある②古瓦が採集される、の2点があげられる。そしてこの解釈については、河田氏の発言として付近にこの幣田神田があることから「拝志長者」の屋敷跡という解釈を示している。

なお、吉田東伍氏は「拝志寺」については山城國紀伊郡拝志郷の項で「此郷は深草村の東南大龜谷の辺をさしたるならん、都名所圖會に拝志寺は深草に其址あるべしと云ふも是歟」(149頁)とあり、拝志寺は紀伊郡深草の付近に存在したという見方を探っている。

2. たなかしげひさ『10世紀の平安京内外の諸寺』(『日本歴史』第267号掲載、吉川弘文館・東京、昭和45年) この中で田中重久氏は久御山町田井在住の高校教諭林正次郎氏の説として、論文に引用している。原文は以下の通りである。

久世郡久御山町大字林の東二〇〇メートル、いまの日産車体の構内に野神という約一畝の土坦があり（高さ不明）その西と北各一〇〇メートルのところを、東西と南北に走っていた旧道（今亡）沿いに、曾て布目瓦を多く出土した。(76頁)

ここでの林寺跡の状況に関しては、①野神と呼ばれる約一畝の土坦がある②高まりの西と北各100mのところを東西と南北に走っていた旧道沿いに布目瓦が採集される、の2点である。これは基本的に吉田氏と同じである。そしてこの遺跡の付近には「大門」「中垣内」「垣外」という小字があるので、瓦窯跡ではなく寺跡と解釈している。ただし、巨椋池の南畔に位置することから近都の範囲に入らないので史料にあらわれる「拝志寺」に比定できないとしている。

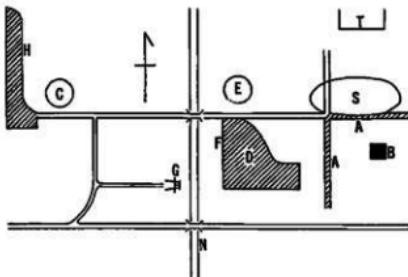
3. 阪部五三夫・中務佐市編『久御山町の社寺』(久御山町郷土史会・京都府久御山町、昭和51年)

この中の林寺の項では上記の1・2の文献を引用し、状況を述べている。ただし、採集された瓦には長岡京出土のものと同様のものがあると述べ、8世紀には存在した久御山町最古の寺院としている。

以上についてまず、遺跡の状況については①野神と呼ばれる約一畝の土坦がある②布目瓦が採集されるという2点に集約される。そして②について文献2より高まりの西と北各100mのところを東西と南北に走っていた旧道沿いで採集されていたこと、文献3よりそれが長岡京出土の瓦と同じであることが補足された。

遺跡の解釈について、文献1では地元の伝承より「拝志長者の宅址」とされていたが、文献2では寺跡という解釈が示され、それが文献3で階級されている。

しかし寺跡の根拠となっているのはあくまで上記の2点の状況である。今回の試掘調査ではこの根拠となつた高まりや布目瓦の確認と新たな寺院関連遺構（基壇、礎石建物跡、瓦溜まりなど）の検出が目的とされた。



第4図 久世郡拝志の郷（久御山町林）の林廃寺址⁽³⁾
(久御山町田井の林正次郎先生[府立洛北高校社会科]作図)
A：瓦を出土した旧道 B：土坦は壹塔址か C：大門
D：中垣内 E：垣外 F：林 G：栗葉神社
H：西林 S：京の間（平城、平安両京の間）
T：三条（久世郡の条）

註

- (1) 「日本書紀」仁德天皇十二年十月条、および推古天皇十五年二月条。ただし、前者の開削記事について書紀成立時における潤色という意見があり、史実かどうか定かではない。
- (2) 谷岡武雄「平野の開発」(東京、昭和39年)。
- (3) 足利健亮「京都盆地東縁の南北古道」(『探訪古代の道』2所収、昭和63年)。
- (4) 荒川 史「栗腰の大溝に関する一試案」(『あまのともしひ—原口正三先生古稀記念集』所収、平成12年)。
- (5) 池邊 雅樹「和名類聚抄地名考證 増訂版」(昭和45年、東京)。
- (6) 「桙定寺領田畠流記帳」(財団法人古代学協会編「桙定寺文書」所収、昭和54年)。
- (7) 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター「久御山町佐山遺跡第3次」(『京埋セ現地説明会資料』No01-05、向日、平成13年)。
- (8) 「日本文徳実録」嘉祥三年三月条
- (9) 「延喜式」玄蕃寮式

図註

- (註) たなかしげひさ『10世紀の平安京内外の諸寺』(『日本歴史』第267号掲載、吉川弘文館・東京、昭和45年) 76頁の第一図を転載。

第2章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

京都府宇治市及び久世郡久御山町にまたがる日産自動車京都工場において平成13年（2001）に工場閉鎖・売却に伴う再開発が計画された。この中で当該地が遺跡指定されていることから、久御山町教育委員会から日産自動車株式会社に遺跡確認のため試掘調査を行うよう指示があった。これにより平成13年5月日産自動車株式会社より財團法人古代學協會・古代學研究所に試掘調査の依頼があった。数度の協議を行い検討した結果、これを受託することとし、試掘調査を担当することとした。

発掘の担当は以下の通りである。

調査主任：江谷 寛（財團法人古代學協會・古代學研究所教授）

調査員：桐山秀穂（財團法人古代學協會・古代學研究所助手）

調査補助員：谷口 梢（帝塚山大学大学院修士課程1年）

河野凡洋（花園大学大学院修士課程1年）

また、発掘調査の実施に伴う様々な協力については下記の業者に発注した。

機械掘削：株式会社 大高建設

作業委託：TSKトレードサービス

基準点測量：日間調査設計コンサルタント

平成13年5月に契約書を締結し、具体的な発掘調査の準備を始めた。調査範囲は当該地約10000m²のうち1200m²を調査対象とすることとした。そして5月29日から6月2日にフェンス設置、プレハブ設置など発掘準備、器材準備を行った。

第2節 調査経過（第5図、図版9・10上参照）

試掘調査は平成13年6月4日に開始し平成13年8月1日に終了した。試掘調査の対象地区は日産自動車京都工場の北西部の現在は駐車場として使用されていた区画である。東西約100m、南北約100mの平面ではほぼ正方形を呈する。この地区について国土座標第VI系に基づいてグリッドの設定を行った。すなわちこの地区に国土座標の4メートル方眼の網を被せて北東角を起点とし、南北方向では1～33列、東西にはA～AD列を設定した。そして各グリッド名はこのアラビア数字とアルファベットの組み合わせて用いることとした。そしてこの地区の中で4本のトレンチを設定したが、トレンチの配置について2度大きく変更している。

調査は当初、幅4.5m、長さ88mのトレンチを、東西方向に2本、南北方向に1本、計3本掘削する予定であった。しかし、機械掘削を始めた6月7日に遺構面までの深さが2.5mと予想以上に深いことが判明し、そのため急きょ幅10m、長さ30mのトレンチを4本に変更した。この際、最初に掘り下げた部分については壁の崩落の危険性を考慮して、最低限の記録に留めた上で埋め戻した。

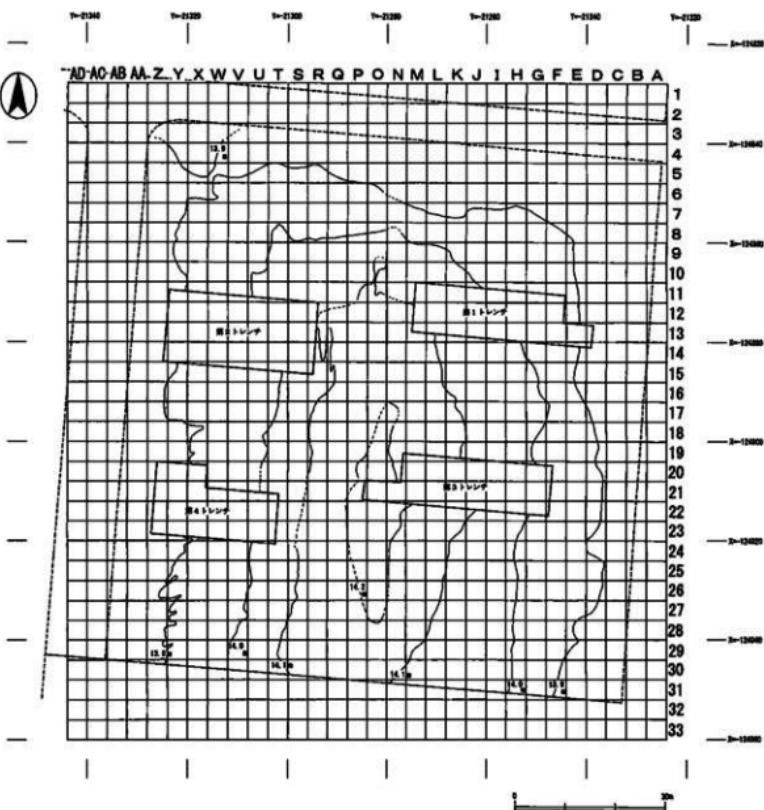
しかし6月13日、第2トレンチで奈良時代の瓦が出土し、ピットが確認されたため、このトレンチについては幅を13.5mに拡張し、第4トレンチを若干縮小することとした。

6月4日から平成13年6月13日まで第1トレンチから順に機械掘削を行い、地表より2.2～2.8mのレベルで遺構面を確認した。6月11日より遺構面及び壁面の清掃と遺構検出作業に入った。6月13日に第2トレンチのサブトレンチで下層遺構が確認された。従って、全トレンチにサブトレンチを入れて下層遺構を確認することとした。第3トレンチについてはサブトレンチを入れる場所に戦前の溝を確認しており、この溝を掘り下げる

こととした。そして7月3日より平面実測及び断面実測にとりかかった。7月19日に掘り下げ終了し、全体の清掃を始め、7月25日までにトレンチ別の終了光景と全体の終了光景の写真を撮影した。

7月26日には第3トレンチの高まりが寺院の基壇か否か明らかにするために幅4.5m、長さ9mのトレンチを第3トレンチの西端を延長するよう新たに設けて拡張し精査を行った。また、この日、京都府教育委員会、久御山町教育委員会による試掘調査の最終確認が行われた。

7月27日より8月1日まで埋め戻し作業を行い、8月2日に日産自動車株式会社に現場引き渡しを行った。



第5図 グリッド割付図 (1/1000)

第3章 層序と遺構

第1節 層序と遺構の概要

この調査の基本層序は次のように大きく4層に分けることができた。

I層：上面はアスファルトで舗装されており、その下は7.5YR4/6褐色、ないし5YR5/4にぶい赤褐色砂泥で3～7cmの角礫を多量に含む。あまり締まっておらず軟らかい。厚さ約0.6mであった。戦後の日産自動車の駐車場造成に伴う盛土層である。

II層：上面はアスファルト舗装、その下5YR4/4にぶい赤褐色砂泥（1～2cmの礫を少量含む）、7.5YR4/3褐色砂泥（1～2cmの礫を中量含む）、10YR6/4にぶい黄褐色砂泥（10cm、1.0～1.5cmの礫を中量含む）10YR5/4にぶい黄褐色泥土が短いスパンで鱗状に積み上げられている。あまり締まっておらずやわらかい。厚さ1.4～1.6mであった。戦時中の京都飛行場建設に伴う盛土層である。

III層：5Y4/2～4/3灰オリーブ色～暗オリーブ色砂泥層。戦前の耕作土層である。厚さ約0.3～0.5mである。これはさらに細分化された。

IV層：5Y4/1～4/2灰色～灰オリーブ色砂泥層。III層よりも色調が淡い。各トレンチで異同が認められる。一応古代から中世の層と考えられる。これもまたさらに細分化された。

V層：2.5Y4/1黄灰色泥土層。一応地山とみられる。

なお、第3トレンチではIII層が1.3mと厚かったが、その分II層は0.3mと薄かった。後述するが、このIII層は鳥糞であり、それをそのまま埋めたため、このような土の堆積をしている。

今回の調査では旧耕作土を除去した面、すなわちIV層上面を第1の遺構面と認識し、遺構の確認にあたった。そして、各トレンチの北ないし南壁に沿って幅50cmのサブトレンチを設定し掘り下げ、V層上面でも遺構の確認を行った。

本調査により確認された遺構総数は293基である。そしてその大半が耕作に伴う溝、ないし方格地割に伴う溝で、東西あるいは南北小溝である。これは中世のものである。このほか飛鳥時代以降のピット1基、弥生時代終末期のピット1基、古墳時代後期の土坑1基、奈良時代以降のピットと考えられる遺構5基がある。

またこれらの遺構は時期的に各遺構の性格の違いから必ずしも連続していないものとみられる。すなわち、遺物から見れば飛鳥時代と奈良時代の間には空白期があり、平安時代中期にもやはり空白期が存在する。中世以降は連続しているものとみられるが、農地として利用されたと推測される。遺物が少なく、遺構の具体的な動向はよくわからない。

以下、トレンチごとで層序と遺構を説明する。

第2節 第1トレンチ（図版1・10下参照）

現地表より2.5m下で遺構面（IV層上面）を確認した。中世の小溝群が確認された。また、北壁に沿って幅50cm、深さ20cmのサブトレンチを設定し掘り下げた。この底面はV層上面であり、P166、P167、P168、S D169、SD170、SD171、SD172が確認され、下層にも遺構の存在が判明した。このうちP166は飛鳥時代の遺構の可能性がある。したがってこの面が古墳時代から奈良時代の遺構面の可能性が高いと考えられる。

第1トレンチからは77基の遺構が確認された。この大部分が耕作に伴う小溝である。ピットもいくつかあるが、平面形が整っておらず、埋土は溝と同質の土である。したがって耕作溝の一部が残ったものであり、柱穴の可能性は低いと考えられる。

なお、6月10日に掘削した部分はこのトレンチの東につながり、このトレンチを第1トレンチ拡張区とした。ここからは現地表面から2.5m下で古墳時代後期の土坑状の遺構SK177が確認されている。この土坑からは6世紀～7世紀の須恵器が少量出土している。

第3節 第2トレンチ（図版2・11上参照）

現地表より2.6～2.8m下で遺構面（IV層上面）を確認した。また、東壁に沿って幅1.8m、深さ30cmのサブトレンチを、南壁に沿って幅50cm、深さ20cmのサブトレンチを設定し掘り下げた。サブトレンチ内からはP539、P540、P541、P542、P543、SD544、P545、P546、P547、P548、SD550、SD551、SD552、SD553、SD554、SD555が確認された。遺構は155基確認された。縄文時代以降のピット、弥生時代のピット、奈良時代以降のピット、中近世の小溝群である。また、このトレンチからは奈良時代の軒平瓦が1点出土している。

縄文時代以降のピットとは東壁沿いのサブトレンチ内の遺構P539である。ここより縄文晩期長原式の深鉢口縁部が出土している。縁片であり、この遺構からはほかに出土遺物がない。ピットの検出レベルは現地表より2.9m下であり、古い時期の遺構であることは確かである。一応縄文時代晩期以降と考える。

弥生時代のピットも同じく東側のサブトレンチより確認された。ピットからの出土遺物はないが、これを覆っていた土中より弥生時代終末期の壺破片が出土しており、これ以降の遺構と判断される。このピットの検出レベルは現地表より3.0m下である。縄文時代以降のピットとの関連はわからない。

奈良時代以降のピットはP224、P231、P233、P245、P502である。いずれもトレンチ東側に位置する。IV層上面から掘り込まれた遺構である。平面形は一辺50cm～80cmの方形、ないし隅丸方形を呈し、埋土には土師器・須恵器を比較的多く含んでいる。柱穴の可能性があるが、時期や具体的な性格については掘り下げていないので厳密な判断できない。含まれている遺物から一応奈良時代以降とした。

このトレンチの遺構の大部分は中近世の小溝群である。また、サブトレンチを掘り下げたところ、トレンチの中央やや西より幅12mほどの落ち込みSD555が確認されている。これはその位置から坪境の大溝の可能性か、さらに古い時期の溝、ないし埋没河川の可能性もある。

このトレンチの西、Y12区・Y13区に幅5cm以下、長さ20cm～30cmの東西方向の小溝が密集する。これはその大きさやこの溝の端部が鋭角であることから、鎌の痕跡と考えられる。こうした痕跡は全トレンチの中でもここだけである。また、12世紀代の遺物はここからまとまって出土している。

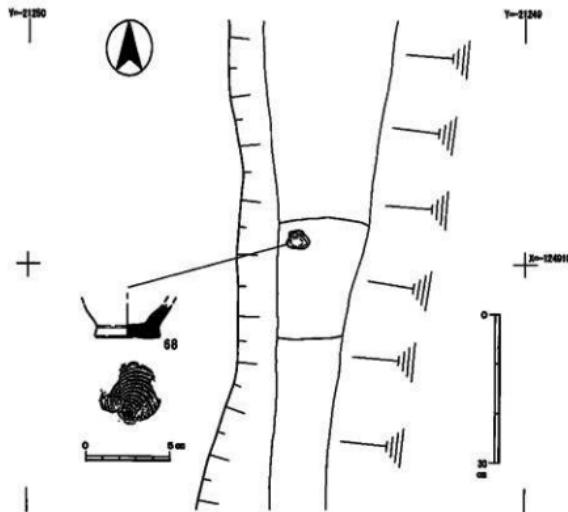
第4節 第3トレンチ（第6図、図版3・11下参照）

現地表より2.2m下で遺構面（IV層上面）を確認した。遺構は20基確認した。IV層上面では近世・近代の溝群が確認された。また、このトレンチでは北壁沿いと東壁沿いの近代の溝を掘り下げて下部の遺構の確認した。それは東壁沿いの溝から見つかった9世紀代の小土坑1基である。

9世紀のピットはSD303の底より見つかったP320である（第6図）。30～40cmほどの平面橢円形を呈する小土坑である。須恵器壺Lの底部が出土し、それより9世紀と判断される。

また、このトレンチは他のトレンチと比較して50cmほど遺構面のレベルが高い。また、戦時中の飛行場建設に伴う整地層の直下に旧耕作土とそれ以前、近世以降の盛土層が堆積しており、戦前はある程度高まりがあったことが認められた。

これらの高まりの具体的な様相を把握するため、試掘の最終段階において幅4.5m、長さ10m西側に拡張した（第3トレンチ拡張区）。その結果、まず遺構面の高まりは、東西で30m以上あることがわかり、寺院の基壇な



第6図 ピットP320検出状況(1/10)とその出土須恵器(1/3)
どここの周辺で見つかっている島畠跡と共通する特徴である⁽¹⁾。

これまでの林寺跡をめぐる研究の中で、吉田東伍氏、田中重久氏はその存在根拠の1つとして、基壇状の高まりの存在をあげている⁽²⁾。このトレンチで確認された戦前の盛土層、および造構面の高まりはこれと直接関連するかどうかわからない。

第5節 第4トレンチ(図版4・12上参照)

現地表より2.6m下で造構面(IV層上面)を確認した。造構は41基確認した。方格地割に平行する中近世の溝群と斜行する溝3本を検出した。また南壁に沿って幅50cm、深さ20cmのサブトレンチを設定し掘り下げ下部の造構の有無を確認した。サブトレンチでは東端の溝S D440と落ち込みS D441が確認された。S D440はS D401と重なっている造構であり、掘り込み面についてはわからない。また、サブトレンチ内のS D429以西では河川堆積層と思われるような落ち込みS D441がある。これは第2トレンチと同様の造構であり、条里制にかかる大溝あるいは自然流路が埋没している可能性がある。

斜行する溝にはS D405、S D429、S D438の3本がある。

S D438は埴土がほかの中近世の溝と同質であり、近世瓦が出土していることから、近世の造構であろう。地割方位と無関係にイレギュラーな形で掘り込まれたものである。

S D405、S D429は切り合いより条里制施行以前と考えられる。しかし、遺物が出土しておらず具体的な時期についてはわからない。この上層からは古墳時代の須恵器が出土しており、古墳時代の溝の可能性が高い。

註

- (1) 佐山遺跡の島畠跡については竹原一彦氏御教示。
- (2) 吉田東伍『大日本地名辞書』(東京、明治33年)。

たなかしげひさ『10世紀の平安京内外の諸寺』(『日本歴史』第267号掲載、東京、昭和45年)。

どの造構ではなく、自然地形の微高地であることことが判明した。

また、戦前の盛土層についても東西30m以上あることが判明した。ただし、旧耕土層はトレンチの西端付近で途切れてしまい、東西幅が約30mであることがわかった。盛土がなされた上に耕作土を入れて耕作されていることから、この高まりは島畠であると判断された。この高まりを除去した地点では造構、特に耕作溝と称される小溝群は全くない。これは佐山遺跡などこの周辺で見つかっている島畠跡と共通する特徴である⁽¹⁾。

第4章 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は整理箱にして6箱である。その時期は縄文時代から江戸時代までに及ぶ。そのほとんどはIV層上面ないしIV層からの出土である。遺物出土量をみると古墳時代後期、飛鳥時代、奈良時代後期、平安時代後期が多数を占め、また、全トレンチから出土している。縄文時代、弥生時代、古墳時代前期、江戸時代はわずかである⁽¹⁾。

第1節 縄文土器（図版5参照）

第2トレンチP539から縄文土器深鉢口縁部が1点出土している(1)。口縁から下がった位置に突帯が1条付く。胎土からみれば、生駒西麓産である。晩期の長原式である。縄文時代の遺物はこの1点のみである。

第2節 弥生土器（図版5参照）

弥生時代の遺物は第1トレンチおよび第2トレンチより弥生土器の破片が少量出土している。2は壺の底部、4は壺の胴部である。4には粗い縦ハケが施されている。第II様式のものである。3に樹描文が施された壺の胴部破片がある。5条1単位の直線文と2条1単位の斜格子文が施されている。第II様式から第III様式のものである。このほかに小破片のため図示できなかったが、弥生終末期の壺の頸部が出土している。内面の縦のケズリが頸部境界まで入っているものである。

第3節 土師器（図版5・15上参照）

古墳時代前期、飛鳥時代、奈良時代後期から平安時代前期、平安時代後期に分けられる。

古墳時代前期の土師器には壺口縁部が1点第1トレンチから出土している(5)。口縁の立ち上がり部の中位が弱く外に屈曲し接となっている。おそらく布留式と考えられる。

奈良時代後期から平安時代前期の土師器には杯(6～9)、椀(10～11)、皿(12～15)、高杯(16)がある。6は杯Bの口縁部、7～9は杯Bの底部である。底部は痛みが著しく調整についてよくわからない。立ち上がりの部分にナデが部分的に残存する。10・11は椀Aの口縁部である。底部はa手法によって調整されている。12～15は皿Aである。12は平安京II期中段階に併行する時期のものであろう。9世紀後葉のものである。14はロクロナデの後c手法によって調整している。16は高杯の底部である。12以外については器形および手法から平城Ⅲ～V式に併行するものである。8世紀後半に位置付けられよう。

平安時代後期の土師器には皿(17～35)、台付皿(36)がある。17～22は直径10cmほどの中型皿である。ゆるやかに立ち上がり二段ナデが施されるもの(17・18)、一段ナデが施されるもの(19・21・22)、一段ナデであるが口縁が外反するもの(20)がある。23～28は小型皿である。直径は7～9cmであるが、27のみ5cmと小さい。これもゆるやかに立ち上がり一段ナデが施されるもの(23～26)、口縁が外反し一段ナデが施されるもの(27・28)がある。29・30はいわゆる「手の字口縁」の皿である。直径は6～7cmで、平安京出土のものと比べると若干小さい。31～35はいわゆる「コースター」形の皿である。31は直径11cmと大型である。32～35は直径9cm台で、口縁端部はしっかり折り曲げられている。底部はやや外に膨みを持つようである。36は台付皿の台部である。ヨコナデにより整形されている。

二段ナデの中型皿、立ち上がりのゆるやかな小型皿、「手の字口縁」の皿、「コースター」形の皿は平安京と

も共通する器形である。平安京の編年と比較すれば、27・28は平安京IV期新段階～V期古段階に、それ以外は平安京IV期新段階～V期古段階に相当しよう。しかし、胎土、細部の調整は平安京出土の土器とは異なり、在地産の土師器と考えられる。また、宇治市街跡の出土例とも比べても、27・28は13世紀後半、それ以外は11世紀末から12世紀初頭に位置付けられよう。

第4節 須恵器（第7図、図版6・15下参照）

古墳時代後期～飛鳥時代の須恵器には杯H蓋、杯H、杯G蓋、杯B蓋、すり鉢、壺、壺がある。37・38は杯H蓋である。37は弱い稜が残存するが、38では稜がなくなり、天井部の回転ヘラケズリもない。37は陶邑田辺編年のTK208型式に、38はTK217型式に相当しよう。39～43は杯Hである。39は口縁の立ち上がりがしっかりしており、底外面の1/2以上に回転ヘラケズリが施される。TK43型式のものである。40は口縁の立ち上がりは比較的しっかりしているものの、底外面のヘラケズリが残存部位には認められない。41も立ち上がりは同様である。底外面の中央約1/2に回転ヘラケズリが施される。40～42はTK209型式、飛鳥編年の飛鳥Ⅰ期に属する。43は立ち上がりが弱く、受け部も退化している。残存部からは底外面の回転ヘラケズリは認められない。口径も10cm前後と小さい。TK217型式、飛鳥Ⅱ～Ⅲ期のものである。44は杯G蓋である。いずれも内外面は回転ナデ調整である。内面には、いずれも欠けているが、しっかりしたかえりがついている。TK217型式古段階、飛鳥Ⅱ期のものであろう。45は杯B蓋である。内外面とも回転ナデ調整であり、内面に短いかえりが付く。TK217型式新段階、飛鳥Ⅲ期のものである。46はすり鉢の口縁部である。口径13.0cmであり、比較的小さく古墳後期～飛鳥時代のものであろう。46は壺脛部である。外面は平行叩きの後にカギ目が施されている。内面は同心円叩きが残る。6世紀以降の資料であるが、39・43とともに第1トレンチSK177より出土したものであり、これと同じ時期と考えられる。67（第7図）は大型の壺の口縁部である。頸部に櫛描波状文がある。

奈良時代の須恵器には杯B蓋、杯Aまたは杯B、皿A、壺A蓋、壺、壺がある。46～49は杯B蓋である。口縁部付近に段の付くもの（48・49）とつかないもの（46・47）がある。50～52は杯Aまたは杯Bの口縁部である。いずれも回転ナデ調整である。53～55は杯Bの底部である。底部立ち上がり近くに高台が付く。57・58は皿Aである。59は壺の肩部である。おそらく長頸壺であろう。60・61は壺Bの口縁部である。60は外面に平行叩き、内面に同心円叩きが残っている。62・63は壺Aの口縁部である。64は壺の口縁部である。口唇部下位に沈線1条めぐる。65は壺底部である。高台が付く。杯B、皿A、壺、壺のあり方から平城Ⅱ～V期に併行するものと考えられる。

平安時代の須恵器は壺Jである（第6図68）。底径3.8cmで糸切り痕を残している。平安京II期中段階、9世紀後葉のものである。



第7図 須恵器大壺（1/3）

第5節 黒色土器・瓦器・瓦質土器（図版7・16上参照）

黒色土器と瓦器碗、瓦質土器羽釜・深鉢が第2トレンチを中心に出土している。黒色土器はA類の碗底部が1点出土している（84）。底径は8.6cmで、見込みのヘラミガキは間隔の空いた平行線状を呈す。9世紀後半に属する。瓦器碗は桙葉型である（69～83）。I～3期、11世紀末～12世紀初頭のものである。85は瓦質土器羽釜

である。口縁部は内傾し、外面に沈線が3本施される。14世紀の山城E型ないし折津E型である。86は深鉢である。

第6節 陶磁器（図版7参照）

綠釉陶器、灰釉陶器、瀬戸、白磁、肥前染付、瀬戸染付が出土している。

綠釉陶器は2点出土している。87は印刷花文を施した東海産綠釉陶器の皿である。淡緑色の綠釉が全体に薄く掛けられている。ほか硬陶の綠釉陶器碗の破片が1点出土している。

灰釉陶器には楕口縁部と底部がそれぞれ1点づつ出土している。88は楕口縁部である。口縁より胴上半部に灰釉が薄く掛けられている。折戸53号窯式第3段階から東山72号窯式のものであろう。10世紀後半のものと考えられる。89は楕底部である。見込みに灰釉が残存する。高台の断面より黒窯90号窯式のものであろう。9世紀後半のものと考えられる。

瀬戸には柿釉の天目茶碗がある（90）。口径8.2cmで、高台脇を水平にヘラケズリが施されている。柿釉は上半部に厚く掛けられているが、下半部は露胎である。

白磁は碗で玉縁碗である（91）。胎土は粗雑で淡黄色を呈し、しっかり磁器化していない。やや黄味がかった白磁釉が厚く掛けられている。森田・横田編年の白磁碗IV類であり、12世紀後半～13世紀前半のものである。

染付は3点出土している（92～94）。92は肥前染付丸碗の口縁部である。外面に菊花が、口縁直下の内外面には圓線が描かれている。肥前磁器の大橋編年のV期に属し、江戸時代後期、18世紀後半から19世紀前半のものである。93も肥前染付丸碗の胴部である。外面に網目文が描かれる。94は瀬戸染付端反碗の口縁部である。胴部には隸字体文様が描かれている。これは瀬戸村編年の第3段階第11小期に属する。19世紀第3四半期のものである。

第7節 瓦（図版8・16下参照）

古代の瓦は軒平瓦1点と平瓦破片が出土している。

99は6681型式の平城宮式軒平瓦の中心よりやや左寄りの破片である。上に2本の圓線、下に1本の圓線を持ち、均整唐草文の一部が認められる。外区幅は上1.3cm、下1.15cm、内区幅3.2cmである。文様の深さは2～3mmと深く、非常にシャープであるが、唐草文にやや直線的な部分がある。断面は剝頭で瓦当面を貼り付けた後、凹面。凸面とも横位のヘラケズリの後ナデを施している。凸面の叩き目痕、凹面の布目は認められない。頭の長さは推定3.0cm、深さ0.9cmである。

100は平瓦の破片である。側面を残す。凹面に布目、凸面には網目叩きを残す。

101は九瓦の玉縁部である。門面には布目を残す。凸面は網目叩きをナデ消している。

102・103はともに網目叩きが施されることから、平安前期以前のものである。あるいは99と同時期のものであろうか。

104～108は凹面に布目を持つ瓦の破片である。102は九瓦の玉縁部、103は九瓦の破片、104～108は平瓦の破片である。

第8節 製塙土器（図版7参照）

第2トレンチから2点出土している（95・96）。器厚は1cmほどと分厚く、内面には布目压痕がある。岩本正二氏の分類でII類にあたり、8世紀中葉～9世紀初頭のものである⁽²⁾。

第9節 土製品・石製品（図版7参照）

土製品では第2トレンチより土製円盤が1点出土している(97)。信楽の壺胴部を打ち欠いて作ったものである。長さ3.8cm、幅3.2cm、厚さ1.3cmである。石製品では第1トレンチより砥石の破片が1点出土している(98)。残存する長さ4.8cm、幅4.8cm、厚さ2.5cm、重さ62gの粘板岩製である。

註

(1) 出土遺物を分類するにあたっては下記の文献に参考としている。

<須恵器> 田辺昭三『須恵器大成』(東京、昭和56年)。

<飛鳥～平安時代土器>奈良国立文化財研究所編『飛鳥・藤原京発掘調査報告書』Ⅱ(奈良、昭和53年)。

奈良国立文化財研究所編『平城京発掘調査報告書』Ⅳ(奈良、昭和51年)。

古代の土器研究会編『古代の土器1 都城の土器集成』(京都、平成3年)。

古代の土器研究会編『古代の土器2 都城の土器集成Ⅱ』(京都、平成4年)。

<平安時代土器> 横田洋三『出土土器編年試案』(財団法人古代学協会『平安京左京五条三坊十五町』所収、京都、昭和56年)。

横田洋三『土師器皿(Bタイプ系)の跡形、規格の変化と製作技術について』(財団法人古代学協会『押小路殿 平安京左京三条三坊十一町』所収、京都、昭和59年)。

古代学研究所編『平安京提要』(京都、平成5年)。

小森俊寛・上村憲幸『京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究』(財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『研究紀要』3所収、京都、平成7年)。

<瓦器碗> 高槻市教育委員会『上牧遺跡発掘調査報告書』(高槻、昭和55年)。

<瓦質土器羽釜> 菅原正明『畿内における土釜の製作と流通』(『文化財論衡』所収、京都、昭和58年)

<縁軸陶器・灰軸陶器> 萩原孝正『東海地方の施軸陶器生産』(『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東3 施軸陶器－』所収、京都、平成5年)。

<輸入陶器> 横田賢次郎・森田勉『太宰府出土の輸入陶器について—型式分類と編年を中心として—』(『九州歴史資料館研究論集』4所収、太宰府、昭和53年)。

<肥前染付> 大塚康二『肥前陶磁』(『考古学ライブラリー』20、東京、平成元年)。

<近世瀬戸焼> 瀬戸市史編纂委員会『瀬戸市史 陶磁史稿』6(瀬戸、平成10年)。

(2) 岩本正二『7～9世紀の土器製塙』(『文化財論衡』所収、京都、昭和58年)。

第5章 まとめ

今回の試掘調査では奈良時代の瓦・土器類は出土したものの、礎石、基壇など主要伽藍と関連する遺構は発見されなかった。しかし、従来知られていなかった古墳時代後期の遺構・遺物、縄文時代・弥生時代の遺物が確認され、下層の遺跡の存在が明らかとなった。この結果、当該遺跡は縄文時代から近世にいたる複合遺跡であることが新たに判明した。

第1造構面においては奈良時代に遡る遺構は確認できなかったが、サブトレント内において奈良時代の遺構面は確認することができた。林寺跡の創建期の面はこの下層の面である可能性が高い。また、田中重久氏が林寺跡の存在根拠として奈良時代の瓦の出土と基壇の可能性がある土壇の存在を挙げている。今回の調査では奈良時代の瓦は出土したが、土壇についてはわからなかった。しかし、それは町が周知の遺跡として指定した遺跡が今回の調査によって否定されたわけではなく、近辺に土壇の存在が予想される。

また、遺物について検討の結果、縄文時代晚期、弥生時代中期、弥生時代終末期、古墳時代前期、古墳時代後期～飛鳥時代、奈良時代後期～平安時代前期、平安時代後期、室町時代、江戸時代の9時期が確認できた。この内飛鳥時代以前については従来知られていなかったものである。縄文・弥生時代の遺跡についてはこれまで旧巨椋池南畔の低地部には遺跡が存在しないとされてきたが、近年久御山町市田斎当坊遺跡・佐山遺跡の調査以来、縄文時代より人間が居住し、大規模な集落が存在していたことが明らかになりつつある。旧巨椋池南畔の低地部の縄文・弥生時代の遺跡動態や社会を復元する上で今回の資料は一助となろう。また、古墳時代後期～飛鳥時代について『日本書紀』にある『栗原大溝』が掘削された時期に当る。こうした低地の開発と関わってくる可能性があろう。『栗原大溝』については諸説あるが、今回の成果はその位置を含め周辺の遺跡の展開を知る上で1つの検討材料となろう。

今回の調査に当っては日産自動車株式会社、ならびに日産不動産株式会社の担当の方々には大変お世話になりました。記して感謝申しあげます。また、今回の調査及び整理作業に際し、次の関係各位には格別のご教示とご協力を賜りました。記して謝意を表します（五十音順・敬称略）。

有井広幸・磯野浩光・国下多美樹・古閑正浩・小山雅人・吹田直子・関川尚功・竹原一彦・辻本清美・野島永・藤井 豊・星野佳史・森岡秀人・森 正

京都府教育委員会・久御山町教育委員会・(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

第1表 土器・陶磁器観察表

第一表 土器・陶磁器観察表

番号	種類	遺構	遺物	番号	器種	口径	残存 率半	器高	内面調整	外表面	粘土	色調	生成	備考
1	縦文土器	新21系+ P539 4-2	深杯 (口縁 部)	-	-	2.2cm	-	1.8cm	磨滅により不明	1-3mm厚の石英、角内石、 1.長石、角閃石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面S5/6にぶい赤褐色 断面S5/6灰褐色	安部が口縁横直下に 条めぐる 土器 接合式	良	
2	学生土器	新21系+ 2-38	壺 (底 部)	4.1cm 2/3	壺	1.8cm	-	-	磨滅により不明	1mm厚の石、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面2.57/7灰褐色 断面2.57/7黒色	良		
3	学生土器	新21系+ 2-6	壺 (底 部)	-	壺	4.6cm	-	-	磨滅により不明	1mm厚の長石、石英、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面10K7/7にぶい黄褐色 断面10K7/7にぶい黄褐色	5条單位の輪層直 線文 表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	良	
4	学生土器	新21系+ 4-8	壺 (底 部)	-	壺	4.4cm	-	-	剥離。一部剥け残存 横穴付	1mm厚の長石、石英、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面2.57/7灰褐色 断面2.57/7灰褐色	内面7.57/7灰褐色 断面7.57/7灰褐色	良	
5	土師壺	新21系+ 4-14	壺 (底 部)	11.1cm 11.1cm	壺	1.12/2.9cm	33+*	-	-	1mm厚の長石、石英、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面10K7/4灰褐色 断面10K7/4灰褐色	内面10K7/4灰褐色 断面10K7/4灰褐色	良	
6	土師壺	新21系+ 4-14	壺 (底 部)	17.4cm 1/10.3cm	壺	33+*	-	-	-	1mm厚の解石、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面SP6/1灰褐色 断面2.57/7灰褐色	内面SP6/1灰褐色 断面2.57/7灰褐色	良	
7	土師壺	新21系+ 4-14	壺 (底 部)	11.2cm 1/8	壺	1.3cm 1+	-	-	-	1mm厚の長石、石英、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面10K7/4灰褐色 断面10K7/4灰褐色	内面10K7/4にぶい黄褐色 断面10K7/4にぶい黄褐色	良	
8	土師壺	新21系+ 6-18	壺 (底 部)	12.0cm 1/5	壺	1.7cm 1+	-	-	-	1mm厚の赤色逐粒、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面10K7/3にぶい黄褐色 断面10K7/3にぶい黄褐色	内面10K7/3にぶい黄褐色 断面10K7/3にぶい黄褐色	やや 良	
9	土師壺	新21系+ 2-1	壺 (底 部)	19.4cm 1/8	壺	1.6cm 1+	-	-	-	1mm厚の赤色逐粒、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	良	
10	土師壺	新21系+ 1-23	壺A (口 縁部)	17.6cm 1/10	壺A (口 縁部)	2.6cm 1/7	33+*	-	-	1mm厚の石、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面1.57/7/6灰褐色 外面1.57/7/6灰褐色	内面1.57/7/6灰褐色 外面1.57/7/6灰褐色	やや 良	
11	土師壺	新21系+ 4-14	壺A (口 縁部)	10.2cm 1/7	壺A (口 縁部)	2.2cm 1/7	33+*	-	-	0.5mm厚の石、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面10K7/4にぶい黄褐色 断面10K7/4にぶい黄褐色	内面10K7/4にぶい黄褐色 断面10K7/4にぶい黄褐色	不良	
12	土師壺	新21系+ 3-1	壺 (底 部)	13.2cm 1/12.1.3cm	壺	33+*	-	-	-	砂粒はほとんど含まれ ない	内面1.57/7/6灰褐色 外面1.57/7/6灰褐色	内面1.57/7/6灰褐色 外面1.57/7/6灰褐色	やや 不良	
13	土師壺	新21系+ 4-14	壺 (底 部)	20.0cm 1/12.1.3cm	壺	33+*	-	-	-	1mm厚の長石、 1.長石、 1.炭化含む 1.表面S5/6灰褐色 断面S5/6灰褐色	内面10K7/4にぶい黄褐色 断面10K7/4にぶい黄褐色	内面10K7/4にぶい黄褐色 断面10K7/4にぶい黄褐色	やや 良	
14	土師壺	新21系+ 3-11	壺 (底 部)	14.2cm 1/16.2.0cm	壺 (底 部)	20.0cm 1/16.2.0cm	33+*	-	-	0.5mm厚の長石含む	内面SP6/1灰褐色 断面OR6.1/7.1赤黒色	内面SP6/1灰褐色 断面OR6.1/7.1赤黒色	やや 良	

					mm粒の長石、石英、 雲母合む	mm粒の長石、石英、 雲母合む	mm粒の長石、石英、 雲母合む	mm粒の長石、石英、 雲母合む	mm粒の長石、石英、 雲母合む
15 土師器	第11レット 4-14 底	皿 (口 底)	底径 15.4cm	1/12.1.4cm	327+	327+	327+	327+	327+
16 土師器	第21レット 2-38 底	皿 (底) 縁部	15.6cm 1/8	1.9cm	327+	327+	327+	327+	327+
17 土師器	第21レット 3-17 縁部	皿 (口 縁部)	15.2cm 1/8	1.9cm	327+	327+	327+	327+	327+
18 土師器	第21レット 3-37 縁部	皿 (口 縁部)	15.0cm 1/10.2.1cm	327+	327+	327+	327+	327+	327+
19 土師器	第21レット 2-20 縁部	皿 (口 縁部)	12.6cm 1/6	2.9cm	327+	327+	327+	327+	327+
20 土師器	第21レット 2-38 縁部	皿 (口 縁部)	14.0cm 1/8	2.0cm	327+	327+	327+	327+	327+
21 土師器	第11レット 4-14 縁部	皿 (口 縁部)	12.5cm 1/12	1.7cm	327+	327+	327+	327+	327+
22 土師器	第21レット 4-30 縁部	皿 (口 縁部)	13.4cm 1/8	2.0cm	327+	327+	327+	327+	327+
23 土師器	第21レット 3-7 縁部	皿 (口 縁部)	10.0cm 1/8	1.4cm	327+	327+	327+	327+	327+
24 土師器	第21レット 3-37 縁部	皿 (口 縁部)	9.0cm 1/6	1.6cm	327+	327+	327+	327+	327+
25 土師器	第21レット 2-38 縁部	皿 (口 縁部)	8.4cm 1/4	1.5cm	327+	327+	327+	327+	327+
26 土師器	第21レット 2-38 縁部	皿 (口 縁部)	8.0cm 1/8	1.2cm	327+	327+	327+	327+	327+
27 土師器	第21レット 2-38 底部	皿 (口 底部)	6.0cm 1/8	1.2cm	327+	327+	327+	327+	327+
28 土師器	第21レット 2-38 縁部	皿 (口 縁部)	9.2cm 1/8	1.8cm	327+	327+	327+	327+	327+
29 土師器	第21レット 2-38 縁部	皿 (口 縁部)	12.0cm 1/8	1.0cm	327+	327+	327+	327+	327+

第1表 土器・陶磁器類別表

30 土師器 新21レット 2-38	皿(口 縁部) 直(口 縁部~ 脚部)	10.0cm 12.4cm	1/12 1/8	0.8cm 1.3cm	++*	砂粒はほんと含まれ ない。	内面10YR8/2灰白色 外面10YR5/3灰白色 新面10YR7/4にぶい黄橙色 内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面10YR7/4にぶい黄橙色 新面10YR7/2にぶい黄橙色 内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面10YR6/6灰黄色 新面10YR6/2灰黄色	不真 やや 良
31 土師器 新21レット 2-38(底部)	皿(口 縁部) 直(口 縁部)	11.6cm	1/10	0.9cm	374†*	1mmの長石、石英、 輝石含む	内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面10YR6/4にぶい黄橙色 新面10YR7/2にぶい黄橙色 内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面10YR6/6灰黄色 新面10YR6/2灰黄色	不真 やや 良
32 土師器 新21レット 2-6	皿(口 縁部) 直(口 縁部)	9.4cm	1/8	1.3cm	++*	1mmの長石、石英、 輝石含む	内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面10YR6/4にぶい黄橙色 新面10YR7/2にぶい黄橙色 内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面10YR6/6灰黄色 新面10YR6/2灰黄色	不真 やや 良
33 土師器 新21レット 2-6	皿(口 縁部) 直(口 縁部)	10.0cm	1/8	1.0cm	++*	0.5mmの長石、石 英、輝石含む	内面2.5YR7/4灰黄色 外面2.5YR7/4灰黄色 新面2.5YR7/4灰黄色	やや 不真
34 土師器 新21レット 2-20	皿(口 縁部) 直(口 縁部~ 脚部)	9.0cm	1/8	1.0cm	++*	0.5mmの長石、石 英、輝石含む	内面85YR7/2灰白色 外面85YR7/2灰白色 新面85YR7/2灰白色 内面85YR7/2灰白色	やや 良
35 土師器 新21レット 2-38	皿(口 縁部) 直(口 縁部)	10.2cm	1/6	1.0cm	++*	0.5mmの長石、石 英、輝石含む	内面2.5YR7/4灰黄色 外面2.5YR7/4灰黄色 新面2.5YR7/4灰黄色	やや 良
36 土師器 新21レット 3-17	皿(脚 底) 直(脚 底)	10.0cm	1/8	1.0cm	++*	0.5mmの長石、石 英、輝石含む	内面5YR7/2灰白色 外面5YR7/2灰白色 新面5YR7/2灰白色	やや 良
37 須恵器 新31レット 2-26	斜方盤 (天井 部)	-	-	1.5cm	374†*	自然粘土により確認不可	内面5YR7/2灰白色 外面5YR7/2灰白色 新面5YR7/2灰白色	やや 良
38 須恵器 新11レット 4-15	斜方盤 (口縁 部)	10.0cm	1/8	0.9cm	374†*	1mmの長石、 輝石含む	内面77YR8/0灰白色 外面77YR8/0灰白色 新面77YR8/0灰白色	良
39 須恵器 新11レット 1-6	斜方盤 (口縁 部)	14.2cm	1/6	3.3cm	374†*	1mmの長石含む	内面77YR8/0灰白色 外面77YR8/0灰白色 新面77YR8/0灰白色	良
40 須恵器 新11レット 2-31	斜方盤 (口縁 部)	13.4cm	1/8	2.7cm	374†*	1mmの長石、石 英、輝石含む	内面77YR8/0灰白色 外面77YR8/0灰白色 新面77YR8/0灰白色	良
41 須恵器 新411レット 6-5	斜方盤 (口縁 部)	11.0cm	1/6	3.0cm	374†*	1mmの長石、石 英、輝石含む	内面2.5YR7/4灰白色 外面2.5YR7/3灰黄色 新面2.5YR7/3灰黄色	やや 良
42 須恵器 新31レット 2-26	斜方盤 (口縁 部)	9.2cm	1/5	2.5cm	374†*	0.5mmの輝石、長 石、輝石含む	内面85YR7/1灰白色 外面85YR7/1灰白色 新面85YR7/1灰白色	良
43 須恵器 新31レット 1-5	斜方盤 (口縁 部)	10.4cm	1/6	2.1cm	374†*	0.5mmの長石、石 英、輝石含む	内面7-5YR7/1灰白色 外面85YR7/1灰白色 新面85YR7/1灰白色	良
44 須恵器 新11レット 4-15	斜方盤 (口縁 部)	10.8cm	1/6	1.6cm	374†*	0.5mmの長石、石 英、輝石含む	内面85YR7/1灰白色 外面85YR7/1灰白色 新面85YR7/1灰白色	良

45 須恵器 新21レット 3-2 (口縁 部)	井3蓋 (口縈 部)	16.4cm 1/10 1.25cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	1mm程の長石、石英含 む	内面N7/0灰白色 外面N6/0灰白色 断面10/7/1灰白色	良
46 須恵器 新21レット 2-7 (口縁 部)	井3蓋 (口縈 部)	19.0cm 1/8 2.0cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	1mm程の長石、石英含 む	内面SP6/1灰白色 外面S5/0灰白色 断面2.5/7.5/14+アーチ	良
47 須恵器 新21レット 2-7 (口縈 部)	井3蓋 (口縈 部)	17.0cm 1/10 1.4cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	1mm程の長石、石英 含む	内面SP6/1灰白色 外面S5/0灰白色 断面2.5/7.5/14+アーチ	良
48 須恵器 P166 6-15 墨	井3蓋 (口縈 部)	14.0cm 1/6 2.1cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	0.5~1mm程の長石、石 英含む	内面N7/0灰白色 外面N6/0灰白色 断面2.5/7.5/14+アーチ	やや 良
49 須恵器 新11レット 1-17 墨	井3蓋 B (口縈 部)	15.5cm 1/8 1.0cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	1mm程の長石、石英含む	内面SP7/2灰白色 外面10/7/1灰白色	良
50 須恵器 新21レット 6-13 墨	井3蓋 B (口縈 部)	14.4cm 1/6 4.0cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	1~2mm程の長石、石 英、1mm程の石英含む	内面7.5/7/2灰白色 外面7.5/7/2灰白色	良
51 須恵器 新31レット 2-26 墨	井3蓋 (口縈 部)	14.4cm 1/8 3.1cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	1mm程の長石、石英含 む	内面SP6/1灰白色 外面3.5/6/2灰白色	良
52 須恵器 新11レット 4-9 墨	井3蓋 (高台 部)	14.0 1/8 3.0cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	1~2mm程の長石、石 英含む	内面N6/0灰白色 外面7.5/7/1灰白色	良
53 須恵器 新21レット 2-2 墨	井3蓋 (底 部)	14.0cm 1/10 1.4cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	砂粒を含まない	内面N6/0灰白色 外面6.5/6/0灰白色 断面9/7/0灰白色	良
54 須恵器 新41レット 6-5 墨	井3蓋 (底 部)	9.5cm 1/8 1.7cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	1mm程の長石、石英含 む	内面N6/0灰白色 外面7.5/7/1灰白色 断面9/7/0灰白色	良
55 須恵器 新11レット 4-15 墨	井3蓋 (底 部)	6.0cm 1/8 1.4cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	1mm程の長石、石英含 む	内面N6/0灰白色 外面6.5/6/0灰白色 断面9/7/0灰白色	良
56 須恵器 新21レット 6-13 墨	井3蓋 (口縈 部)	13.0cm 1/7 3.5cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	内面N6/0灰白色 外面7.5/7/1灰白色 断面9/7/0灰白色	良	
57 須恵器 新11レット 4-14 墨	井3蓋 (底 部)	15.2cm 1/10 1.5cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	内面SP7/2灰白色 外面3.5/6/2灰白色 断面7.5/7/0灰白色	良	
58 須恵器 新11レット 1-11 墨	井A (底 部)	13.5cm 1/8 1.0cm	0101+	0101+	井3蓋の 「めか」の後天井部少/回転 アーチ	内面N7/0灰白色 外面3.5/7/1灰白色	良	

59 須恵器 第21レット 1-17 蓋(頭 部)	14.6cm - 3.5cm	口横部 の内側 3.5cm	施釉により確認不可 施釉により確認不可	1mm程の茶母含む 1mm程の茶母含む	内面2.57/1灰白色 外面7.57/5灰褐色 (輪)	良
60 須恵器 第21レット 2-2 蓋(口 縁部)	20.2cm - 1/12 4.3cm 円文付	口横部が内側へ滑落同心 1/12 4.3cm 円文付	口横部が内側へ滑落同心 1/12 4.3cm 円文付	1mm程の長石、石英、 素母含む 1mm程の長石、石英、 素母含む	内面57/6/2灰褐色 7.57/6/2灰褐色 (輪)	良
61 須恵器 第21レット 2-2 蓋(口 縁部)	26.0cm - 1/10 4.7cm	口横部 の内側 1/10 4.7cm	口横部 の内側 1/10 4.7cm	自然釉により確認不可 0.95cm*	内面2.57/1灰白色 外面7.57/1灰褐色 (輪)	良
62 須恵器 第21レット 1-11 縁部)	25.0cm - 1/8	口横部 の内側 1/8	口横部 の内側 1/8	自然釉により確認不可 0.95cm*	内面57/4/2灰褐色 外面57/4/2灰褐色 (輪)	良
63 須恵器 第21レット 4-15 縁部)	16.0cm - 1/8	口横部 の内側 1/8	口横部 の内側 1/8	自然釉により確認不可 0.95cm*	内面57/1灰白色 外面57/6/2灰褐色 (輪)	良
64 須恵器 第21レット 2-14 縁部)	10.7cm - 1/8	口横部 の内側 1/8	口横部 の内側 1/8	自然釉により確認不可 0.95cm*	内面57/6/4/1灰白色 外面57/6/4/1灰白色 (輪)	良
65 須恵器 第21レット 6-13 縁部)	10.4cm - 1/10 3.1cm	口横部 の内側 1/10 3.1cm	口横部 の内側 1/10 3.1cm	自然釉により確認不可 0.95cm*	内面57/1灰白色 外面57/1灰白色 (輪)	良
66 須恵器 第21レット 1-6 縁部)	- - 5.1cm	口横部 の内側 1/15 3.5cm	口横部 の内側 1/15 3.5cm	自然釉により確認不可 0.95cm*	内面57/1灰白色 外面57/1灰白色 (輪)	良
67 須恵器 第21レット 6-16 縁部)	48.0cm - 1/20 4.9cm	口横部 の内側 1/20 4.9cm	口横部 の内側 1/20 4.9cm	自然釉により確認不可 0.95cm*	内面57/1灰白色 外面57/1灰白色 (輪)	良
68 須恵器 第21レット 6-24 縁部)	3.8cm - 2.0cm	口横部 の内側 3.8cm	口横部 の内側 3.8cm	自然釉により確認不可 0.95cm*	内面57/1灰白色 外面57/1灰白色 (輪)	良
69 瓦器 第21レット 2-40 縁部)	15.2cm - 1/20 4.9cm	上部横幅又は斜面 15.2cm 1/20 4.9cm	上部横幅又は斜面 15.2cm 1/20 4.9cm	0.5mm程の長石、石英、素母含む 0.5mm程の長石、石英、素母含む	内面57/6/1灰白色 外面57/6/1灰白色 (輪)	良
70 瓦器 第21レット 2-40 縁部)	15.8cm - 1/6 4.6cm	上部横幅又は斜面 15.8cm 1/6 4.6cm	上部横幅又は斜面 15.8cm 1/6 4.6cm	0.5mm程の赤色斑紋、 0.5mm程の素母含む 0.5mm程の素母含む	内面57/6/1灰白色 外面57/6/1灰白色 (輪)	良
71 瓦器 第21レット 2-40 縁部)	15.0cm - 1/8 4.4cm	上部横幅又は斜面 15.0cm 1/8 4.4cm	上部横幅又は斜面 15.0cm 1/8 4.4cm	0.5mm程の石英、素母 0.5mm程の石英、素母 0.5mm程の石英、素母含む 0.5mm程の石英、素母含む	内面57/6/1灰白色 外面57/6/1灰白色 内面2.57/8/1灰白色 外面2.57/8/1灰白色 内面2.57/8/1灰白色 外面2.57/8/1灰白色	良 良 良 良
72 瓦器 第21レット 2-40 縁部)	14.5cm - 1/12 3.9cm	上部横幅又は斜面 14.5cm 1/12 3.9cm	上部横幅又は斜面 14.5cm 1/12 3.9cm	0.5mm程の素母含む 0.5mm程の素母含む	内面57/6/1灰白色 外面2.57/8/1灰白色 内面2.57/8/1灰白色 外面2.57/8/1灰白色	良 良

73瓦器	第21レット 2-40 (縫合)	輪(口 縫)	15.2cm 1/16 3.0cm	1/22 2.6cm	横位 <small>ハラヒテ</small>	測量。口輪部横位 <small>ハラヒテ</small> 発見	0.5mm程の赤色斑紋、 長石、石英、雲母含む	内面NA/0灰白色 外面R2/0灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	口輪内面に沈積一 系
74瓦器	第21レット 2-40 (縫合)	輪(口 縫)	14.8cm 1/16 3.0cm	横位 <small>ハラヒテ</small>	横位又は斜位 <small>ハラヒテ</small>	0.5mm程の赤色斑紋、 長石、石英、雲母含む	内面NA/0灰白色 外面R2/0灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	口輪内面に沈積一 系	
75瓦器	第21レット 2-40 (縫合)	輪(口 縫)	16.0cm 1/10 2.7cm	横位 <small>ハラヒテ</small>	斜位上部斜位 <small>ハラヒテ</small> / 頸部中位 斜底により不明	1mm程の長石、石英、 雲母含む	内面NA/0灰白色 外面R2/0灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	口輪内面に沈積一 系	
76瓦器	第21レット 2-40 (縫合)	輪(口 縫)	15.4cm 1/8 1.9cm	横位 <small>ハラヒテ</small>	ナ-	1mm程の長石、石英、 雲母含む	内面R2/0灰白色 外面R3/0暗灰白色 新面R3/0暗灰白色	良	口輪内面に沈積一 系	
77瓦器	第21レット 2-40 (縫合)	輪(口 縫)	12.6cm 1/12 2.1cm	横位 <small>ハラヒテ</small>	横位 <small>ハラヒテ</small>	1mm程の長石、石英、 雲母含む	内面R5/0灰白色 外面R4/0灰白色 新面R8/0灰白色	良	口輪内面に沈積一 系	
78瓦器	第21レット 2-40 (縫合)	輪(口 縫)	13.2cm 1/20 1.6cm	横位 <small>ハラヒテ</small>	横位 <small>ハラヒテ</small>	0.5mm程の赤色斑紋、 長石、高台部にナ-一部残 存	内面R3/0灰白色 外面R3/0暗灰白色 新面SP3/1暗青灰白色	良	口輪内面に沈積一 系	
79瓦器	第21レット 2-40 (縫)	輪(底 縫)	5.6cm 1/4 0.6cm	横位	半滅により不明	0.5~1mm程の長石、石 英、雲母含む	内面NA/0灰白色 外面R4/0灰白色 新面SP3/1暗青灰白色	良	底内面みごみご 文一部保存	
80瓦器	第21レット 2-40 (縫)	輪(底 縫)	5.8cm 1/6 1.0cm	ナ-	周底33ナ- / 底部分ナ-	0.5mm程の長石、雲母 含む	内面R3/0灰白色 外面R3/0暗灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	底内面みごみご 文一部保存	
81瓦器	第31レット 2-27	輪(底 縫)	-	-	0.8cm 半滅により不明	砂粒、一部ナ-残存 砂粒	内面NA/0灰白色 外面R3/0暗灰白色 新面SP3/1暗青灰白色	良	底内面みごみご 文一部保存	
82瓦器	第21レット 2-40	輪(底 縫)	6.0cm 1/4 0.8cm	ナ-	ナ-	0.5mm程の長石、雲母 含む	内面NA/0灰白色 外面R3/0暗灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	底内面みごみご 文一部保存	
83瓦器	第31レット 5-22 (縫)	輪(底 縫)	8.0cm 1/6 1.0cm	ナ-	ナ-	0.5mm程の赤色斑紋、 長石、高台外面上に横位のナ-あり	内面V2/0灰白色 外面R2/0灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	底内面みごみご 文一部保存	
84黑色土器	第21レット 2-40 (縫)	輪(底 縫)	8.6cm 1/8 0.8cm	ナ-	ナ-	0.5mm程の角内石、長 石、石英、雲母含む	内面NA/0灰白色 外面R2/0灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	底内面みごみご 文一部保存	
85瓦質土器	第41レット 3-34	輪(口 縫)	27.0cm 1/20 4.7cm	ナ-	ナ-	1mm程の長石、石英、 雲母含む	内面R2/0灰白色 外面R2/0灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	外面上に沈積三条 文	
86瓦質土器	第21レット 2-40 (縫)	輪(口 縫)	34.2cm 1/20 2.6cm	ナ-	ナ-	1mm程の長石、石英、 雲母含む	内面R2/0灰白色 外面R2/0灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	外面上に沈積三条 文	
87特殊陶器	第11レット 6-6	皿(縫合)	15.2cm 1/10 0.6cm	ナ-	ナ-	0.5mm程の雲母含む 乾けナ-	内面NA/0灰白色 外面R2/0灰白色 新面SP3/1暗青灰白色 外側SP3/0灰白色	良	東濃窯。盤鉢形 が一部保存	

第1表 土器・陶器器類表

88灰船型器	新21レット 2-37 輪(口 部)	16.0cm 1/8 3.0cm 0.9cm*	0.9cm*	0.9cm*	1mmの礫石、長石、 石英含む	内面2.5V/1灰白色、 外面2.5V/1灰黄色、 断面2.5V/1灰黄色	灰輪は口縁から脚 部上にうすくか かる
88灰船型器	新21レット 4-1 輪(底 部)	7.5cm 1/6 1.2cm ++*	0.9cm*	0.9cm*	0.5mmの石英、 квар ゼ含む	内面2.5V/1灰白色、 外面2.5V/1灰白色 断面2.5V/1灰白色	船は浅緑色の灰輪
90陶器	新11レット SD131 6-17 (脚)	8.2cm 1/4 3.0cm 0.9cm*	0.9cm*	0.9cm*	口縁部の凹み、脚部下半回 り(カバ)*	内面2.5V/3にぶい赤褐色 (輪底)10V7/4にぶい黄褐色 内面2.5V/2灰白色	灰輪が施されてい る
91磁器	新21レット 4-6 (脚)	13.8cm 1/10 2.0cm 0.9cm*	0.9cm*	0.9cm*	底板(カバ)*	内面2.5V/2灰白色 外面2.5V/2灰白色 断面2.5V/3灰白色	良 玉緑釉
92磁器	新31レット SD303 5-22 (脚)	10.0cm 1/20 2.5cm 0.9cm*	0.9cm*	0.9cm*	砂粒を含まない	内面白色 内面白色 断面白色	灰須により外面に 等花、内面口縁直 下に開窓を描く
93磁器	新11レット SD169 6-10 (脚)	- - 2.8cm 0.9cm*	0.9cm*	0.9cm*	砂粒を含まない	内面白色 内面白色 断面白色	灰須により外面に 等花
94磁器	新11レット SD168 5-14 (脚)	8.4cm 1/5 2.9cm 0.9cm*	0.9cm*	0.9cm*	砂粒を含まない	内面白色 断面7/7灰白色	外面部部中央位に —↑所詮全体文様
95製造土器	新21レット 2-30 (脚)	13.6cm 1/8 4.9cm 0.9cm*	0.9cm*	0.9cm*	1-3mmの長石、石 英、サード、0.5mm程の 石英含む	内面10V7/3にぶい黄褐色 外面10V7/3にぶい黄褐色 断面2.5V/1灰白色	良
96製造土器	新21レット 1-31 (脚)	18.8cm 1/24 7.2cm 0.9cm*	0.9cm*	0.9cm*	0.5mmの長石、石英 含む	外面部SPB3/1灰白色 断面10V5/3灰白色	良

第2表 瓦觀察表

番号	名	番号	種類	厚さ	長さ	凸面調整	凹面調整	側面	底土	色調	焼成
第21b 99 ナ	軒丸瓦(瓦 当部)	1-14	3.2~ 4.7cm 7.6cm 丸瓦	3.2~ 7.6cm 1.6cm 1.6cm	7.6cm 1.6cm 5.7cm	横位けアリ 横位けナシ	横位けアリ 横位けナシ	本目 英・英含む	0.5~1mmの長石・石 英・英含む	表面5Y7/1灰白色 表面5Y7/1灰白色 表面5Y6/1灰白色	新面7.5Y7/2 新面7.5Y7/2 新面7.5Y7/2
100 ナ	丸瓦(玉棒 筋)	1-15						布目鏡 ひも状の痕跡あり	1mm以下 英・英含む	表面5Y6/1灰白色 表面5Y6/1灰白色	新面7.5Y7/2 新面7.5Y7/2
第14 ナ	平瓦	1-19		1.6cm	5.3cm	継位けアリ		細かい布目鏡	1mm以下 英・英含む	凸面5Y6/1 青灰白色 綠灰色	凹面10G7/5 青灰白色 新面7.5Y7/1 青灰白色
第21b 101 ナ	丸瓦	2-5	(2.2c m) 5.8cm	5.8cm	5.8cm	剥離により不明		細かい布目鏡	1~2mmの長石・石 英・英含む	表面5Y7/2 灰白色 表面5Y7/2 灰白色	新面7.5Y6/2 新面7.5Y6/2
第21b 103 ナ	平瓦(筋)	2-34	2.1cm	4.9cm	継位けアリ		細かい布目鏡 面取り	がたり	1mm以下 英・英含む	表面5Y7/1 灰白色 表面5Y7/1 灰白色 白色	新面NB7/0灰 色 新面NB7/0灰 色 新面
第11b 104 ナ	平瓦	4-13		1.4cm	6.5cm	剥離により不明		掌述 剥離により不明	1~2mmの長石・石 英・英含む 1mm以下 の赤色斑紋含む	表面10Y8/1 灰白色 表面10Y8/1 灰白色 表面	新面
第11b 105 ナ	丸瓦(筋)	4-13		1.8cm	4.4cm	継位けアリ		継位けアリ	0.5~2mmの長石・石 英・英含む 1mm以下 の赤色 斑紋・英含む	凸面7.5Y7/4に がたい 焼色 凹面2.5Y7/1 灰白色	新面
第11b 106 ナ	平瓦(筋)	4-20		1.7cm	4.0cm	剥離により不明		布目鏡 面取り	1~2mmの長石・石 英・英含む 1mm以下 の赤色斑紋含む	凸面2.5Y6/3 黄灰色 表面5Y6/4に がたい 焼色	新面2.5Y4/1 新面
第31b 107 ナ	平瓦(筋)	5-23		1.7cm	3.5cm	継位けアリ		布目鏡	1mm以下 の長含む 0.5mm	表面5Y4/1 灰白色 表面5Y7/1 灰白色	新面
第31b 108 ナ	平瓦(筋)	5-42		1.6cm	2.5cm	継位けアリ		布目鏡 面取り	1mm以下 の長石・石 英・英含む	表面・新面5Y8/1 灰白色に 2.5Y6/3 がたい 焼色が現れる 入る	新面

図 版

第1トレンチ 層序

Ⅰ層

1:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (け-7' 黒色砂泥アロッカ、炭化粒、織合む)

2:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (炭化粒含む)

3:5Y5/3灰け-7' 色砂泥 (SD136埋土。炭化粒含む)

4:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (SD137埋土。炭化粒、織合む)

5:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (炭化粒含む)

6:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (け-7' 黒色砂泥アロッカ、炭化粒、織合む)

7:2.5Y3/3暗け-7' 暗色砂泥

8:2.5Y4/3暗け-7' 暗色砂泥 (け-7' 黒色砂泥アロッカ含む)

9:2.5Y4/1灰黄色砂泥 (け-7' 黒色砂泥アロッカ、炭化粒、織合む)

10:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ、炭化粒、織合む)

11:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (炭化粒含む)

12:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (炭化粒、織合む)

13:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 (織合む)

14:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (炭化粒含む)

15:5Y4/1灰色砂泥 (炭化粒、織合む)

16:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 (織合む)

17:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 (灰色砂泥アロッカ、織合む)

18:2.5Y4/3黄褐色砂泥 (炭化粒、織合む)

19:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 (炭化粒含む)

20:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (炭化粒含む)

21:7.5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (炭化粒、織合む)

22:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (暗け-7' 黑色砂泥アロッカ、炭化粒含む)

23:5Y4/1灰色砂泥 (炭化粒、織合む)

24:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (炭化粒、織合む)

25:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (炭化粒含む)

26:2.5Y3/3暗け-7' 暗色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ、織合む)

27:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ、炭化粒含む)

28:2.5Y4/3暗け-7' 暗色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ、炭化粒含む)

29:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ、炭化粒含む)

30:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ含む)

31:2.5Y4/3け-7' 暗色砂泥 (炭化粒含む)

32:2.5Y4/3け-7' 暗色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ含む)

33:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ含む)

34:2.5Y4/3け-7' 暗色砂泥 (織合む)

35:2.5Y4/4け-7' 暗色砂泥 (炭化粒含む)

36:2.5Y4/3け-7' 暗色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ、織合む)

37:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ、織合む)

38:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ、織合む)

39:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ含む)

40:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (炭化粒含む)

41:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (け-7' 黑色砂泥アロッカ、織合む)

Ⅱ層

42:2.5Y3/3暗け-7' 暗色砂泥 (SD165埋土。織合む)

43:2.5Y4/3け-7' 暗色砂泥 (SD157埋土。織合む)

44:2.5Y4/3け-7' 暗色砂泥 (SD155埋土。炭化粒、織合む)

45:2.5Y4/1灰色砂泥 (織合む)

46:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 (織合む)

47:5Y4/2灰け-7' 色砂泥 (SD140埋土。織合む)

48:5Y4/1灰色砂泥 (炭化粒含む)

49:2.5Y4/1灰黄色砂泥 (炭化粒、織合む)

50:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 (SD133埋土。炭化粒含む)

51:2.5Y4/1灰黄色砂泥 (炭化粒含む)

52:7.5Y4/1灰色砂泥 (SD126埋土。炭化粒含む)

53:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (SD125埋土。炭化粒、織合む)

54:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (SD122埋土。炭化粒含む)

55:2.5Y4/3暗け-7' 暗色砂泥 (SD121埋土。炭化粒含む)

56:5Y4/1灰色砂泥 (炭化粒含む)

57:2.5Y4/3暗け-7' 暗色砂泥 (SD120埋土。炭化粒含む)

58:5Y4/1灰色砂泥 (炭化粒含む)

59:5Y4/1灰色砂泥 (織合む)

60:5Y4/1灰色泥土

61:2.5Y4/4け-7' 暗色砂泥 (SD102埋土。暗け-7' 灰色砂泥アロッカ、炭化粒含む)

62:5Y4/3暗け-7' 色砂泥 (SK101埋土。織合む)

63:5Y4/1灰色砂泥 (炭化粒、織合む)

64:5Y4/2灰け-7' 色泥土 (炭化粒含む)

65:5Y4/2灰け-7' 色泥土 (灰け-7' 灰色泥土アロッカ、炭化粒、織合む)

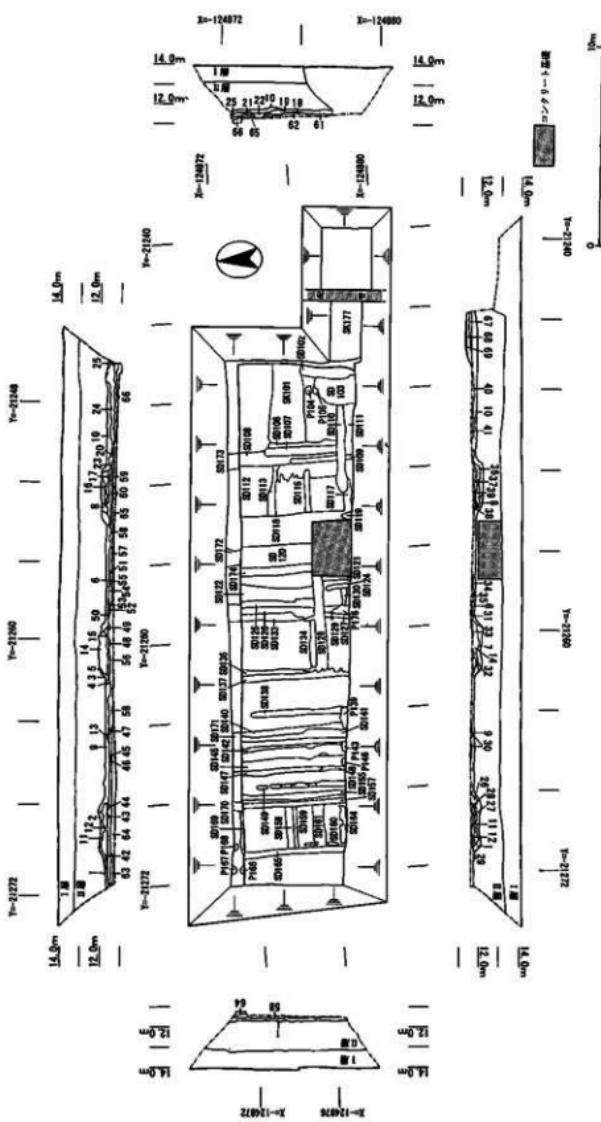
66:5Y4/2灰け-7' 色泥土 (灰け-7' 灰色泥土アロッカ、炭化粒、織合む)

67:5G3/1暗け-7' 色泥土 (SK177埋土)

68:5G4/1暗綠灰色泥土 (SK177埋土)

69:10G5/1綠灰色泥土 (SK177埋土)

第1 トレンチ平面図・断面図 (1/250)



第2トレンド 層序

Ⅲ層

- 1:2G3/1暗^リ-7灰色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒含む)
2:5V3/3灰^リ-7色砂泥
3:7.5V4/2灰^リ-7色砂泥
4:10V4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒含む)
5:2.5GY4/1暗^リ-7灰色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒含む)
6:2.5GY3/1暗^リ-7灰色砂泥 (織合む)
7:5V4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
8:2.5GY4/1暗^リ-7灰色砂泥 (織合む)
9:2.5GY4/1暗^リ-7灰色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
10:10V4/2灰^リ-7灰色砂泥 (炭化粒, 織合む)
11:5GY5/1リ-7灰色砂泥 (炭化粒含む)
12:5GY5/1リ-7灰色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
13:10V4/1灰色砂泥 (炭化粒, 織合む)
14:5GY5/1リ-7灰色砂泥 (炭化粒含む)
15:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒含む)
16:7.5V4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
17:5V4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒含む)
18:7.5V4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒, 織合む)
19:2.5GY4/1暗^リ-7灰色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
20:10V4/2灰^リ-7灰色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
21:10Y5/24リ-7灰色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 織合む)
22:10Y4/2灰^リ-7灰色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
23:5V4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
24:5Y4/3暗^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
25:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
26:10Y4/24リ-7灰色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
27:10Y5/24リ-7灰色砂泥 (織合む)
28:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒含む)
29:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒, 織合む)
30:7.5V4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
31:5Y3/1リ-7黑色砂泥 (織合む)
32:5Y3/1リ-7黑色砂泥
33:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (織合む)
34:5Y4/3暗^リ-7色砂泥 (炭化粒, 織合む)
35:5Y4/3暗^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
36:5Y5/3灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
37:5Y5/3灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 織合む)
38:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 織合む)
39:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (織合む)

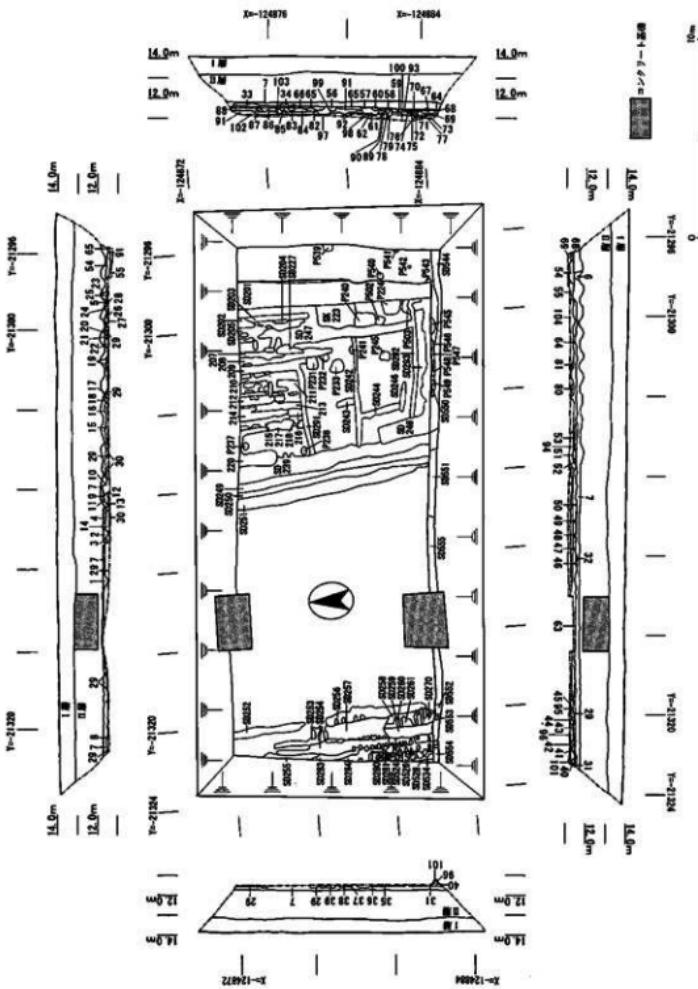
M層

40:5Y3/1リ-7黑色砂泥 (織合む)
41:10Y3/1リ-7黑色砂泥 (炭化粒, 織合む)
42:5Y3/1リ-7黑色砂泥 (灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒含む)
43:2.5V4/2暗^リ-7黄色砂泥 (暗綠灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
44:7.5GY3/1暗^リ-7黄色砂泥 (暗黃色砂泥^{アロカ}含む)
45:5Y4/1灰色砂泥 (炭化粒, 織合む)
46:7.5V4/2灰^リ-7色砂泥 (織合む)
47:7.5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (織合む)
48:7.5V4/2灰^リ-7色砂泥 (織合む)
49:7.5Y3/24リ-7黑色砂泥 (炭化粒含む)
50:7.5Y3/24リ-7黑色砂泥 (炭化粒, 織合む)
51:5Y3/24リ-7黑色砂泥 (炭化粒, 織合む)

52:5Y4/3暗^リ-7色砂泥

- 53:5Y3/24リ-7黑色砂泥 (暗^リ-7色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
54:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
55:5Y4/1暗^リ-7灰色砂泥 (炭化粒, 織合む)
56:2.5Y4/4リ-7褐色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
57:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
58:2.5Y4/3リ-7褐色砂泥 (織合む)
59:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (織合む)
60:2.5Y4/4リ-7褐色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
61:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
62:2.5Y4/2暗^リ-7黄色砂泥 (炭化粒, 織合む)
63:7.5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒, 織合む)
64:2.5Y4/2暗^リ-7黄色砂泥 (暗^リ-7灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒含む)
65:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
66:5Y3/1リ-7黑色砂泥 (織合む)
67:5Y4/2灰^リ-7色砂泥
68:5Y4/1灰色砂泥 (織合む)
69:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (暗青灰色砂泥^{アロカ}含む)
70:2.5Y4/2暗^リ-7黄色砂泥 (織合む)
71:5Y4/4暗^リ-7色砂泥 (炭化粒含む)
72:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒, 織合む)
73:7.5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (織合む)
74:2.5Y4/4リ-7褐色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
75:2.5Y4/3リ-7褐色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
76:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒含む)
77:7.5Y4/2灰^リ-7色砂泥
78:2.5Y4/3リ-7褐色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒含む)
79:2.5Y4/3リ-7褐色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 織合む)
80:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒, 織合む)
81:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (織合む)
82:2.5Y4/4リ-7褐色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒含む)
83:7.5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒含む)
84:2.5Y4/3リ-7褐色砂泥 (炭化粒, 織合む)
85:2.5Y3/3暗^リ-7色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
86:2.5Y3/3暗^リ-7色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
87:5Y3/3暗^リ-7色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
88:10Y4/24リ-7灰色砂泥 (炭化粒含む)
89:2.5Y4/2暗^リ-7黑色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 織合む)
90:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒, 織合む)
91:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒, 織合む)
92:2.5Y4/1黄色砂泥 (リ-7黑色砂泥^{アロカ}, 織合む)
93:2.5Y4/3リ-7褐色砂泥 (炭化粒含む)
94:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒, 織合む)
95:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (暗^リ-7灰色砂泥^{アロカ}, 炭化粒, 織合む)
96:10GY3/1暗^リ-7褐色砂泥 (リ-7褐色砂泥^{アロカ}, 炭化粒含む)
97:7.5Y4/2灰^リ-7色泥土 (炭化粒含む)
98:5Y4/2灰^リ-7色砂泥 (炭化粒含む)
99:2.5Y4/1灰色泥土 (織合む)
100:5Y4/2灰^リ-7色泥土 (織合む)
101:2.5Y3/1褐色砂泥 (炭化粒含む)
102:5Y4/2灰^リ-7色泥土 (炭化粒含む)
103:2.5Y4/2暗^リ-7黄色砂泥 (炭化粒, 織合む)
104:10Y4/1灰色砂泥 (織合む)

第2 トレンチ平面図・断面図 (1/250)

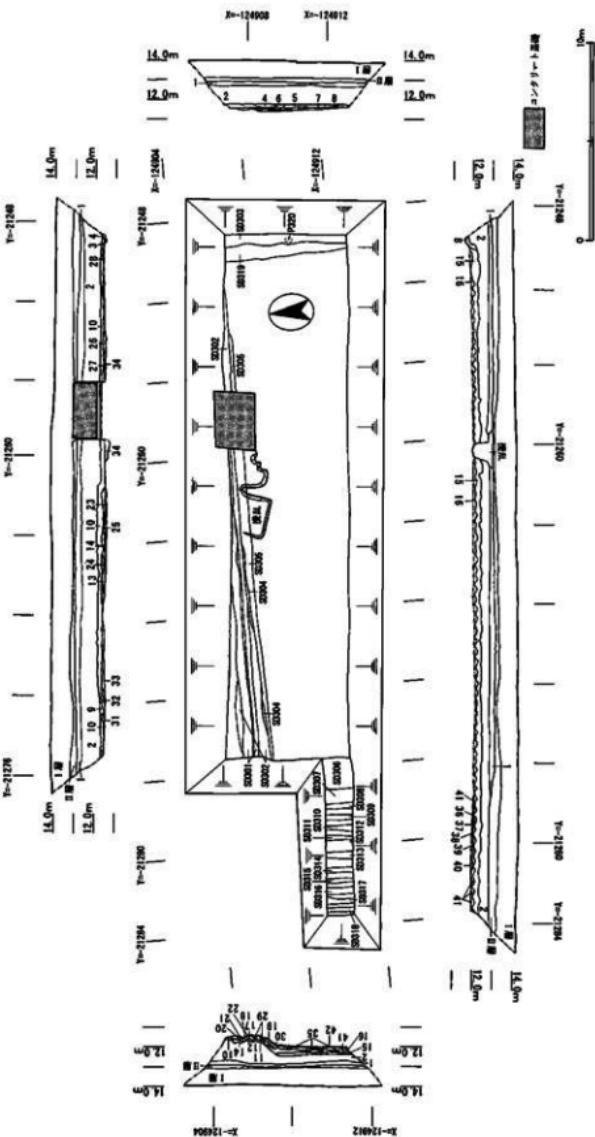


第3 レンチ 屈序

Ⅲ層

- 1:10Y4/4褐色砂泥（織合む。旧耕作土）
2:10Y5/4黄褐色泥土・10Y6/6明黄褐色泥砂・5Y6/2灰青-7'色泥
砂・10Y3/4暗褐色泥土・2.5Y7/4浅黄色砂泥の互層（鳥島の盛
土層）
3:5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD303埋土。織合む）
4:5Y4/2灰青-7'色砂泥（SD303埋土。炭化粒含む）
5:5Y5/2灰青-7'色砂泥（SD303埋土）
6:7.5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD303埋土。炭化粒含む）
7:5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD303埋土。炭化粒、織合む）
8:5Y4/2灰青-7'色砂泥（SD303埋土）
9:5Y5/2灰青-7'色砂泥（織合む）
10:7.5Y4/2灰青-7'色砂泥（青-7'黑色アロカ含む）
11:5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD301埋土。織合む）
12:7.5Y4/2灰青-7'色砂泥（SD301埋土）
13:7.5Y5/2灰青-7'色砂泥（SD301埋土。織合む）
14:5Y4/2灰青-7'色砂泥（SD301埋土。炭化粒含む）
15:5Y4/3暗青-7'色砂泥（暗青-7'灰色アロカ、炭化粒、織合む）
16:5Y5/3灰青-7'色砂泥（炭化粒、織合む）
17:5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD302埋土。暗青-7'灰色アロカ含む）
18:5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD302埋土。炭化粒、織合む）
19:7.5Y4/2灰青-7'色砂泥（SD302埋土）
20:5Y4/3暗青-7'色砂泥
21:7.5Y4/1灰色砂泥（炭化粒含む）
22:7.5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD304埋土）
23:5Y5/3灰青-7'色砂泥（SD302埋土）
24:7.5Y5/1灰色砂泥（SD302埋土）
25:5Y4/1暗青灰色砂泥（SD302埋土）
26:5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD302埋土。織合む）
27:5Y4/1灰色砂泥（SD302埋土）
28:2.5Y6/2灰青色砂泥（SD319。炭化粒含む）
29:5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD304埋土。織合む）
30:5Y4/3暗青-7'色砂泥（SD305埋土。暗青-7'灰色アロカ、織合む）
31:7.5Y4/1灰色砂泥（織合む）
32:7.5Y5/2灰青-7'色砂泥（織合む）
33:5Y5/2灰青-7'色砂泥
34:5Y4/1灰色砂泥（SD304埋土）
35:5Y4/3暗青-7'色砂泥（炭化粒、織合む）
36:7.5Y4/2灰青-7'色砂泥（SD308埋土）
37:5Y5/2灰青-7'色砂泥（SD309埋土。灰色砂泥アロカ含む）
38:7.5Y4/2灰青-7'色砂泥（SD310埋土）
39:7.5Y5/2灰青-7'色砂泥（SD313埋土）
40:7.5Y5/2灰青-7'色砂泥（SD315埋土）
41:10Y4/2灰青-7'灰色砂泥（灰青-7'色砂泥アロカ、織合む）
42:5Y5/3灰青-7'色砂泥

第3 トレンチ平面図・断面図 (1/250)



第4トレンド 墓序

Ⅲ層

- 1:2.5GY/1暗+/-7'灰色砂泥 (暗青灰色砂泥アロッカ、炭化粒、織合む)
2:5Y4/4暗+/-7'色砂泥 (暗+/-7'灰色砂泥アロッカ、炭化粒、織合む)
3:7.5Y3/24+/-7'黑色砂泥 (暗綠灰色砂泥アロッカ、織合む)
4:5Y3/3暗+/-7'黑色砂泥 (暗+/-7'灰色砂泥アロッカ、炭化粒含む)
5:2.5GY3/1暗+/-7'灰色砂泥 (暗青灰色砂泥アロッカ、炭化粒含む)
6:5Y5/2灰+/-7'色砂泥 (暗青灰色砂泥アロッカ、炭化粒含む)
7:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
8:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
9:5Y5/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
10:5Y4/2灰+/-7'色砂泥
11:5Y5/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
12:5Y3/24+/-7'黑色砂泥 (暗綠灰色砂泥アロッカ、炭化粒含む)
13:7.5Y3/24+/-7'黑色砂泥 (暗+/-7'灰色砂泥アロッカ、織合む)
14:7.5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (暗+/-7'灰色砂泥アロッカ、炭化粒含む)
15:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
16:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒、織合む)
17:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (織合む)
18:5Y4/4暗+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
19:5Y4/3暗+/-7'色砂泥
20:5Y5/44+/-7'色砂泥 (炭化粒、織合む)
21:7.5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
22:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (炭化粒)
23:5Y4/4暗+/-7'色砂泥 (炭化粒)
24:7.5Y5/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
25:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD424壤土)
26:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD425壤土、炭化粒含む)
27:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD423壤土、炭化粒含む)
28:7.5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD421壤土、炭化粒含む)
29:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD420壤土、暗+/-7'色砂泥アロッカ含む)
30:10Y4/1灰色砂泥 (炭化粒、織合む)
31:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD416壤土、暗+/-7'灰色砂泥アロッカ含む)
32:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD412壤土、炭化粒含む)
33:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD410壤土、織合む)
34:2.5Y3/3暗+/-7'褐色砂泥 (暗+/-7'灰色砂泥アロッカ、炭化粒含む)
35:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD406壤土、炭化粒含む)
36:5Y3/24+/-7'黑色砂泥 (SD403壤土、暗+/-7'灰色砂泥アロッカ含む)
37:5GY4/1暗+/-7'灰色砂泥 (SD428壤土。ヨリ-7'黑色砂泥アロッカ、炭化粒、織合む)
38:5Y4/3暗+/-7'色砂泥
39:5Y5/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
40:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (織合む)
41:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (織合む)
42:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD402壤土、織合む)
43:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (暗+/-7'灰色砂泥アロッカ、炭化粒、織合む)
44:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (織合む)
Ⅳ層
45:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)
46:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (炭化粒、織合む)
47:7.5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (織合む)
48:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (SK431壤土、織合む)
49:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (織合む)
50:5Y4/2灰+/-7'色砂泥

51:5Y3/1暗+/-7'黑色砂泥 (SD401壤土)

52:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD401壤土)

53:5Y3/1暗+/-7'黑色砂泥 (SD429壤土、織合む)

54:5Y3/1暗+/-7'黑色砂泥 (SD429壤土)

55:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (SD429壤土、炭化粒含む)

56:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (SD429壤土、炭化粒含む)

57:5Y3/1暗+/-7'黑色砂泥 (SD429壤土)

58:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)

59:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (織合む)

60:5Y4/2灰+/-7'色砂泥 (炭化粒、織合む)

61:5Y4/3暗+/-7'色砂泥 (炭化粒、織合む)

62:5Y4/3暗+/-7'色砂泥

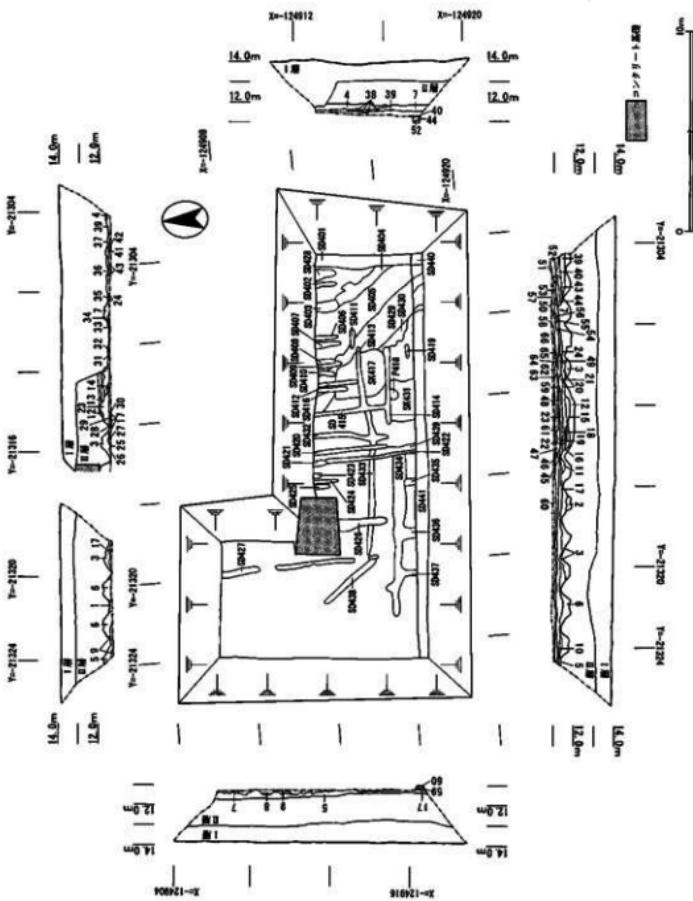
63:5Y4/4暗+/-7'色砂泥 (炭化粒含む)

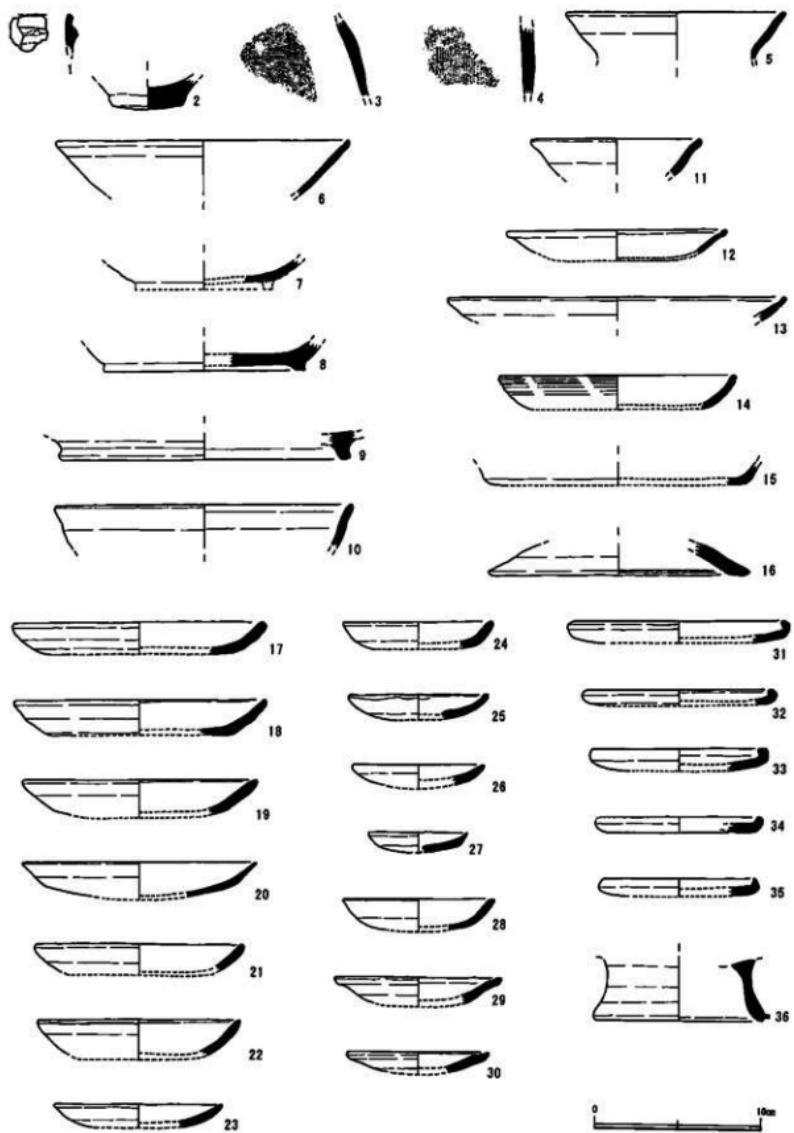
64:5Y4/3暗+/-7'色砂泥

65:5Y4/2灰+/-7'色砂泥

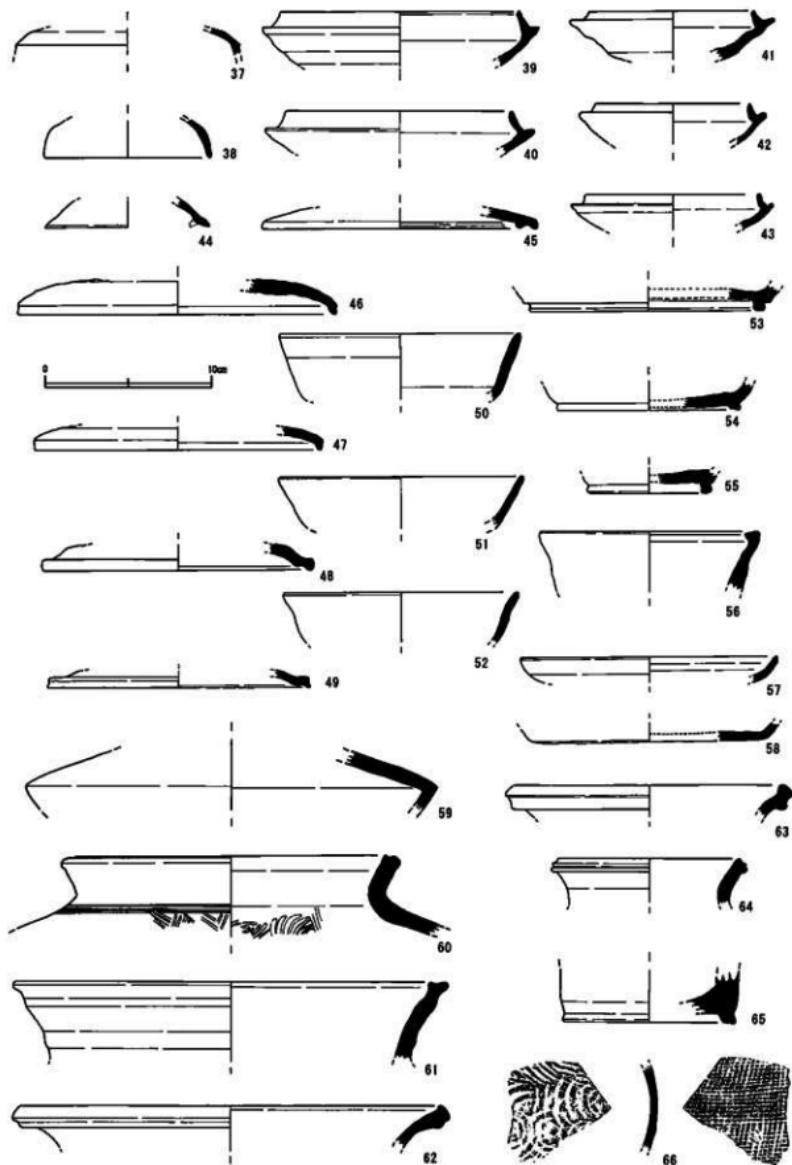
66:7.5Y3/24+/-7'黑色砂泥

第4 トレンチ平面図・断面図 (1/250)

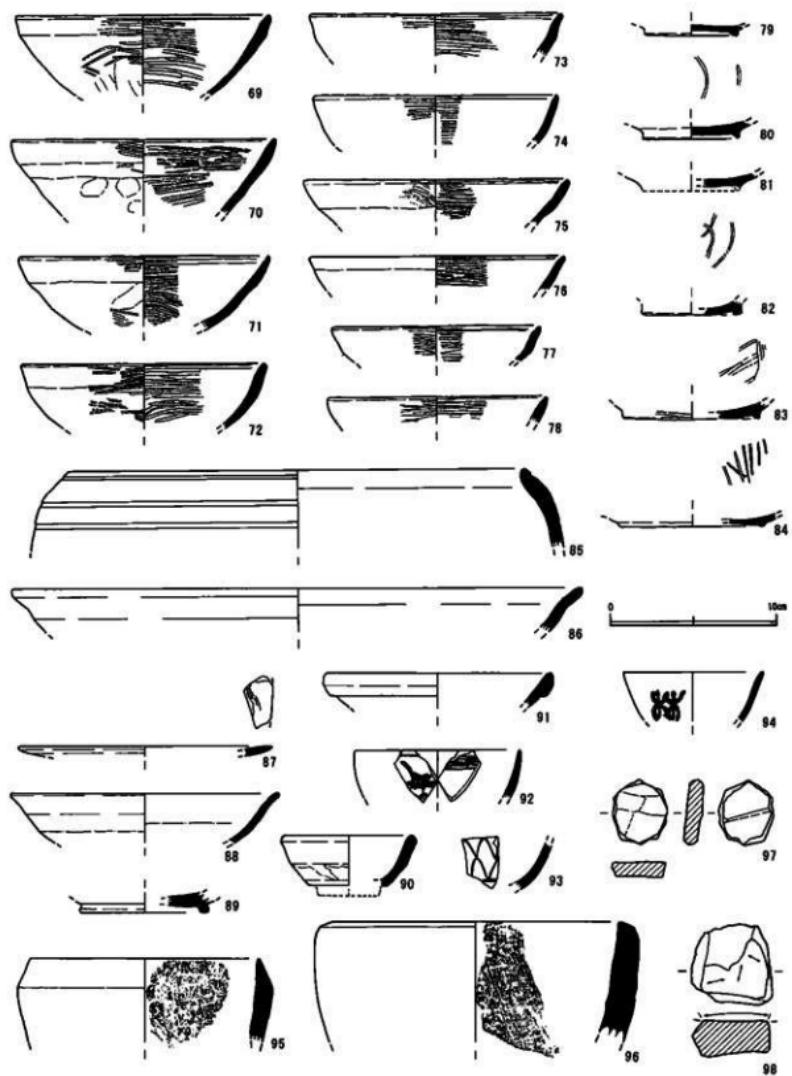




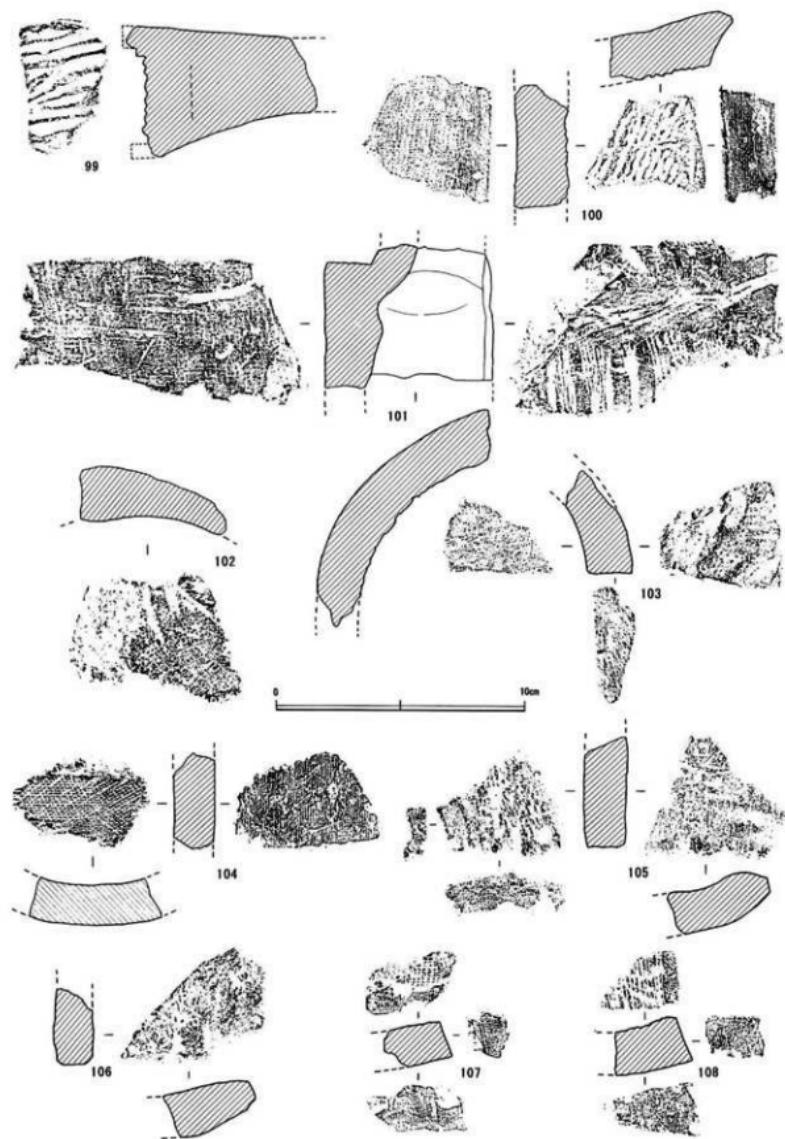
縄文土器・弥生土器・土師器実測図 (1/3)



須惠器実測図 (1/3)



黑色土器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・土製品・石製品実測図 (1/3)



瓦実測図 (1/2)



発掘前光景（西・6層駐車場屋上の東南より）



機械掘削光景（西より）



第1トレンチ遺構検出作業光景（西より）



第1トレンチ終了光景（東より）

第2 レンチ終了光景（東より）



第3 レンチ終了光景（西より）





第4 トレンチ終了光景（西より）



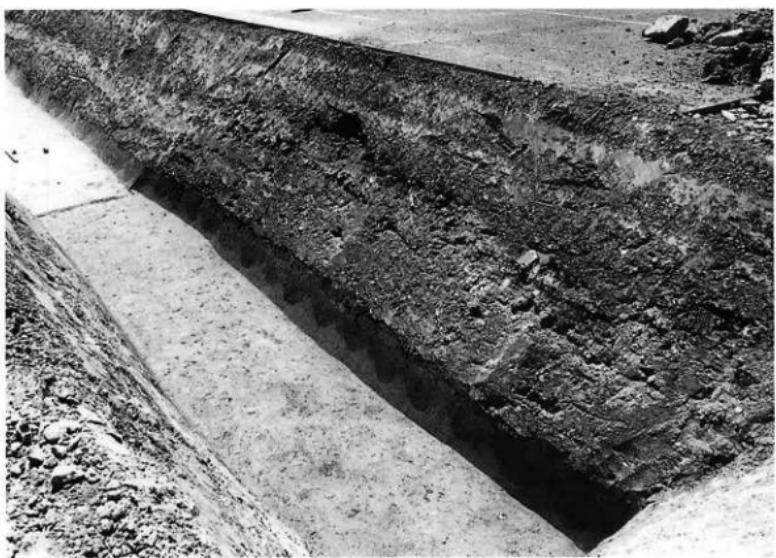
終了全景（西・6層駐車場屋上東より）



第1トレンチ拡張区遺構検出状況（北西より）



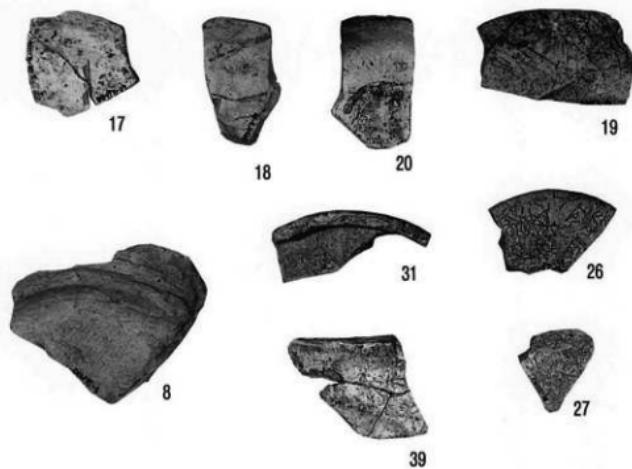
土坑S K177遺物出土状況（東より）



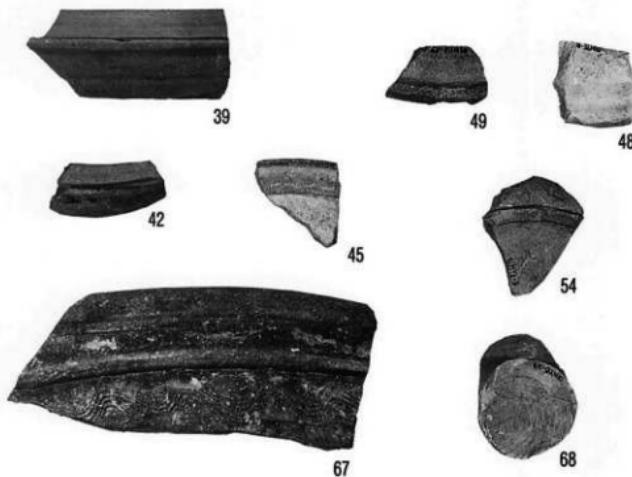
第3 トレンチ拡張区遺構検出状況（北西より）



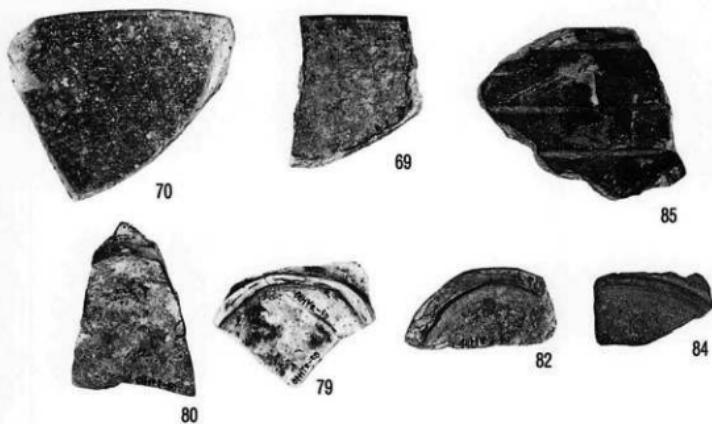
ピット P320検出状況（北より）



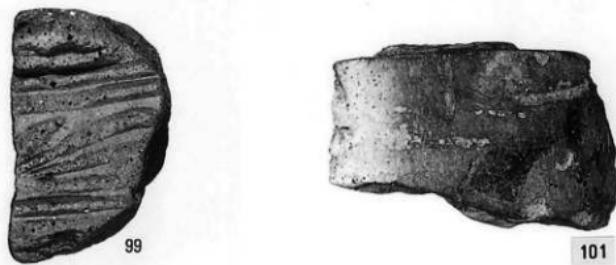
土師器



須惠器



瓦器・瓦質土器



瓦

報告書抄録

ふりがな	きょうとふくみやまちょうはやしでらあとしくつちょうさほうこくしょ							
書名	京都府久御山町林寺跡試掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	江谷 宽, 桐山秀穂							
編集機関	(財)古代學園會							
所在地	〒604-8131 京都府 京都市中京区三条高倉 TEL075-252-3000							
発行年月日	平成14年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯 度	東經 度	調査期間	調査面積	調査原因	
はやしでらあと 林寺跡	きょうとふくぜぐ んくみやまちょう おおあざはやしあ ざたかぐろちない 京都府久世郡久御 山町大字林字高嵐 地内	市町 村	遺跡 番号	35° 3' 1"	136° 59' 8"	2001年 6月4日 ~2001年 8月1日	1350	遺跡確認の ための試掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
林寺跡	集落 寺院跡	绳文時代晚期 弥生時代中期 古墳時代前期 古墳時代後期 飛鳥時代 奈良時代 平安時代前期 平安時代後期 江戸時代	溝・土坑・ピット	绳文土器深鉢 弥生土器甕・壺 土師器甕 須恵器杯 須恵器杯 須恵器杯・土師器皿 須恵器甕・縁輪陶器碗・ 灰釉陶器碗 土師器皿・瓦器碗・瓦質 土器羽釜・白磁碗 肥前染付・土製円盤 砥石				

京都府久御山町
林寺跡試掘調査報告書

発行日 平成14年3月20日

編集
発行 財團法人 古代學協会
604-8131 京都市中京区三条高倉
振替 01080-4-850
Tel.075-252-3000

印 刷 三星商事印刷株式会社
604-0093 京都市中京区新町通
竹屋町下ル弁財天町298
Tel.075-256-0961

EXCAVATIONS AT THE HAYASHI TEMPLE SITE
IN KUMIYAMA, KYOTO PREFECTURE

THE PALAEONTOLOGICAL ASSOCIATION OF JAPAN, INC.

KYOTO MM II